

# 同窓会報



## 鳥羽商船同窓会

〒517-8501  
三重県鳥羽市池上町1番1号  
TEL (0599)25-8045  
FAX (0599)25-8128  
振替口座番号 00850-6-846



創基 130 周年記念号

### ◆ 目次 ◆

近藤真琴記念碑.....	2	支部だより.....	26
祝母校創基 130 周年.....	3	会員紹介.....	29
東日本大震災.....	4	カッター部の活動について.....	30
同窓会の活動.....	6	クラス会.....	31
同窓会会長挨拶.....	9	おめでとうございます.....	32
学校だより.....	10	会員の投稿.....	33
校長挨拶.....	16	新聞記事.....	37
平成 22 年度会務報告.....	17	会員の移動等.....	38
平成 23 年度会務報告並びに計画.....	17	事務局だより.....	40
平成 23 年度行事実績・予定.....	21	会員の計報.....	41
平成 22 年度会計報告.....	22	新入会員.....	42
会計監査報告.....	23	住所変更.....	44
平成 23 年度予算.....	24	寄付金・会費納入一覧.....	45
同窓会役員・理事名簿.....	25	同窓会運営細則(改定).....	48



### 近藤真琴記念碑

本会報の表紙を飾っている写真の近藤真琴記念碑は近藤真琴逝去の3年後、明治22年春に建立されました。当初は現在の鳥羽市民文化会館の建っている所の南寄りであって、その後、母校に移転されました。

碑石は堅神の奥の桜ヶ淵より得た濃緑色の自然石で、碑の正面に刻まれている「近藤真琴翁碑」の字は「応需海舟勝安房書之」と刻まれているように勝海舟の書です。碑の裏面には旧鳥羽藩士有馬百鞭（もむち）が作文し自ら書いた碑陰名銘があり、左側下に碑の建立に同盟人として発起した12名の姓名が刻まれています。

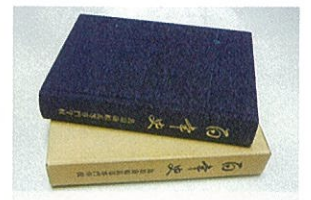
碑の手前左右には聯石柱があり、記念碑に向かって右の石柱には「他山攻玉出良材偉器」背面に「八十六翁鴻雪爪題書」、左の石柱には「家塾育英承恵雨恩風」背面に「近藤真琴先生碑門対聯」と刻まれています。記念碑前庭には近藤真琴の好んだ紅白の梅の木が植えられ、春先には芳しい香りが漂っています。



### 近藤真琴記念碑 建立発起人のご子孫 来訪



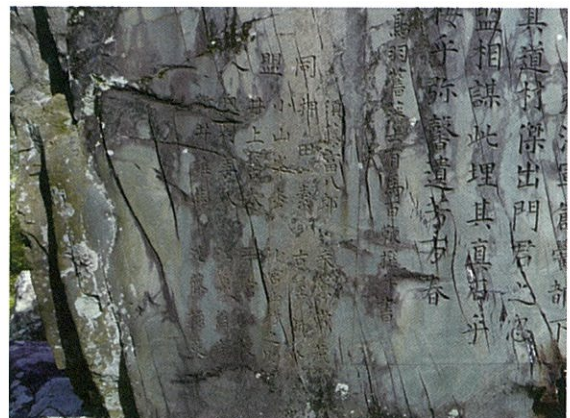
小山峯恠・久富鋳弥  
(向かって右から)



「百年史 鳥羽商船高等専門学校」  
昭和56年11月1日発行  
編集 百年史編集委員会 より  
(同窓会事務室蔵書)

8月27日(土)近藤真琴記念碑の12名の建立発起人の一人である「小山 峯恠」氏のお孫さんである「小山信(まこと)」さんが奥さん・娘さんと共に母校に来られ、近藤真琴記念碑に刻まれているご先祖の名前を確認し、お祖父さんの情報を母校の百年史などで調べて帰られました。誇れるご先祖の情報を得て、満足されたようです。

百年史によれば、「小山 峯恠」氏は三重県師範学校の第一回卒業生で、町立時代の母校に助教諭として採用され、理科系統の科目を担当し、退職後は小学校長や鳥羽町役場の収入役等も務めた町の有力者でした。創基130周年の記念すべき年に来られたのも何かのご縁でしょう。



碑の裏面に刻まれた同盟人の名前







## ～東日本大震災～

3月11日14時46分頃に三陸沖を震源とするマグニチュード9.0の巨大地震が発生しました。この地震により宮城県栗原市で震度7、宮城県、福島県、茨城県、栃木県で震度6強等広い範囲で強い揺れを観測しました。又、太平洋沿岸を中心に高い津波を観測し、特に東北地方から関東地方の太平洋沿岸では大きな被害がありました。

更にその大地震とその後の大津波に端を発し、福島第一原子力発電所は停電により原子炉の制御が不能となり、原子炉建屋の爆発、火災の発生、放射性物質の大量放出が続き、多くの福島県民が故郷を離れて避難する非常事態となっています。

気象庁はこの地震を「平成23年東北地方太平洋沖地震」と命名しました。

東北地方太平洋沖地震及びこれに伴う原子力発電所事故による災害については、「東日本大震災」と呼称することとなりました。

犠牲になられた方々に対し、衷心より冥福をお祈りするとともに、被災者の皆様方に対し、心よりお見舞いを申し上げます。

同窓会では震災発生後直ちに東日本支部が中心となり同窓生及びご家族の安否・被災状況出来る範囲で確認いたしました。以下「被災状況調べ」参照下さい。

会員のご家族に亡くなられた方がおられます。ご冥福をお祈りいたします。

又、多くの方々の家屋・家具に被害がありました。避難された方々も居られます。

被災された皆さまにお見舞いを申し上げます。



### 東日本大震災関連 東日本支部在住者被災状況調べ

本調査は東日本支部が平成22年発行同窓会名簿をもとに千葉県、茨城県、福島県、宮城県、岩手県及び青森県の太平洋に近い地域に在住する同窓の皆様を主として電話による連絡によって調査したものです。この調査に漏れている同窓会員、特に内陸部に在住する方も居られると思いますが、了承下さい。尚、同窓会HPに情報提供のお願いを掲示しましたが記載のアドレスに情報の提供はありませんでした。

卒業年	氏名	所在地	状況
S18	本田 泰夫	茨城県那珂郡東海村	瓦が少し落ちた程度。電気・水道OK
S18	高安 謙二郎	茨城県神栖市	被害なし
S19-12	本間 弘貞	福島市	家具が多少倒れた程度
S22	雨森 大	角田市	たいした事は無かった。元気
S30	佐藤 善喜	仙台市泉区	問題なし
S35	梅崎 延夫	千葉県山武郡九十九里浜町	無事 床下浸水まで
S38	中井川 信満	神栖市	無事、特に被害なし
S40	川田 克也	鹿嶋市	問題なし
S41	西井 紀文	いわき市	無事
S43	大西 裕	福島県双葉郡浪江町	郡山の親戚に避難
S46	木田 繁太郎	いわき市	川崎の海員会館に避難
S47	根森 隆雄	青森県三戸郡五戸町	被害なし
S48	我妻 直志	宮城県宮城郡七ヶ浜町	無事
S50	鈴木 三郎	いわき市	地震・津波で被害無し。原発の関連で屋内避難中
S53	磯上 秀一	いわき市	人・家屋に被害なし、但し、家具等に被害あり
S53	原田 圭司	茨城県北相馬郡利根町	本人海外勤務中



S55	福田 弘文	いわき市	本人、家族共無事、被害少々
S56	佐藤 義明	いわき市	被害少ない、特に問題なし
S57	高山 裕司	いわき市	海外駐在中 実家は被害無し
S57	橋本一也	茨城県西茨城郡友部町	無事 自宅は損傷を受け復旧の目処たらず
S57	宮本 恭夫	茨城県	無事
S61	稲葉 伸実	浦安市	周囲は液状化で混乱しているが自宅は問題なし
S62	佐々木 正志	釜石市	本人、家族共無事、被害は車の流出
H01	小泉 哲史	陸前高田市	実家全壊 家族3名死亡(母親・祖母・その他1名) 全員発見し葬儀まで終了。現在職場復帰。
H02	安藤 一	いわき市	被害なし、但し、原発の問題で家族(子供)避難
H13	阿部 晃	石巻市	母親が震災で死亡 本人横浜勤務
H06	佐々木 薫	いわき市	何の問題もなし
S19	日野 啓太郎	気仙沼市	電話取り外しの為連絡とれず。
S23	熊谷 重孝	塩竈市	家が高台にあり被害はほとんどなし
S27	金澤 恒男	ひたちなか市	たいした事は無かった
S30	酒井 保夫	福島市	震災前に東京に引っ越した
S33	中田 勇	いわき市	本人・家族無事 家屋は瓦が落ちた程度
S34	伊藤 興生	旭市	本人・家族無事
S40	石川 憲	常陸大宮市	タンス・食器棚が動いた程度
S48	伊藤 幸雄	角田市	仙台市で入院の為、自宅を留守。被害は特に無し。
S48	片寄 正美	いわき市	無事
S49	山田 司	青森県上北郡おいらせ町	被害なし
S51	加藤 邦信	塩竈市	無事 家屋に一部損傷があった
S52	笹崎 志郎	いわき市	被害なし
S52	中山 義和	浦安市	周囲は液状化で混乱しているが自宅は問題なし
S53	青田 硬	石巻市	家族無事 家は全壊 本人(サカイ)で勤務
S53	梅谷 利夫	郡山市	家は多少被害を受けたが、家族は元気
S53	河本 幸弘	阿賀野市	無事 家族みな元気
S55	野口 靖司	郡山市	本人家族・家屋被害なし。家財に若干の被害あり
S55	吉田 敦	いわき市	家具等一部破損あったが問題なし
S56	藤野 栄里	仙台市宮城野区	無事。実家は津波で泥だらけ 2階で生活
S63	池田 勝	ひたちなか市	壁にひび ライフラインは確保でき始めた
H01	通野 浩文	いわき市	被害なし
H03	坂村 敦	仙台市青葉区	人的被害なし、家屋被害なし但し外壁一部崩落
H06	田中 鶴壽	郡山市	何の問題もなし

尚、調査時点から時間が経っており、内容に変化が生じている事もあると思われます。

HOME トップページ	各支部の連絡事項 各支部からのお知らせ	求人データベース 働くOBを探しています
新着情報 鳥羽商船同窓会の最新のニュース	会則・同窓会報 ダウンロード	会員の投稿 クラス会・趣味・特技
事務局からのお知らせ 同窓会全体のお知らせ	同窓会のあゆみ 同窓会の概要等	<b>ご投稿を待っています!</b>

最新のニュースや投稿された話題など  
同窓会ホームページでは 随時掲載中!  
事務局へのメールもトップページから送信できます

**鳥羽商船同窓会**

検索

<http://tobashusen-dousoukai.com>



# 同窓会の活動

母校の発展と海事思想普及の為、同窓会が主催若しくは協力して以下の活動を行いました。

今後とも同様の活動を継続して行いたいと考えます。

同窓会ホームページに関連記事がありますので見て下さい。

## 2010年10月以降

### 日本航海学会講演会・研究会

平成22年10月27、28、29日に日本航海学会の講演会・研究会が母校の先生方、専攻科学生も参加して行われました。鳥羽で開催されるのは13年ぶりとのこと。同窓会もこの開催を後援しました。



### 海学祭 開催

平成22年10月31日、小雨降る中、母校において学生主催の海学祭が開催されました。雨にもかかわらず多数の来訪で賑わいました。大阪から入学希望の中学生を連れて来た母親も学校を見に来られました。学生の父兄も多数来られました。いろいろなイベント、ライブ、学科紹介、模擬店、フリーマーケット、鳥羽丸一般開放など、楽しみ一杯の海学祭となりました。

同窓会でも昨年同様からテントを用意し、同窓生に立ち寄ってもらおうと辻会長以下本部事務局がお待ちしました。添付写真は、「学生たちの校歌斉唱」と「同窓会のテント」です。



### 2010年度 故郷の海を愛する会の活動 その③ 実施

伊勢志摩支部同窓生有志からなる「故郷の海を愛する会」の2010年度の活動その③「商船学校の歴史・船と海の話」が平成22年12月19日実施されました。伊勢・志摩・松阪地区の小学生37名中学生11名合計48名の参加となりました。この活動は日本財団の助成事業です。子供たちは先ず以下の話をメディア教室で受けました。

「近藤真琴の話」 講師 同窓生塩野さん

「パナマ運河とニューヨーク」 講師 同窓生古川さん

「ジェスチャーで家電を動かそう」 講師 同窓生江崎さん  
その後、子供たちは機関工場でエンジンを起動・停止、操船シミュレーターで操船、壁面ロボットを操作、百周年記念館の資料の見学等を楽しみました。

昼休みには昼食をとりながらビンゴゲームも楽しみました。

これらの活動を通して子供たちが多少は海の事・船の事を知ってくれたと思います。

藤田校長以下学校職員・学生の方々、ボランティアの方々、有難うございました。故郷の海を愛する会では日本財団の助成を得ながら、学校並びに同窓会の協力を得て、この活動を継続して行いたいと考えています。



## 2011年度

### 戦没・殉職船員追悼式

平成23年5月12日横須賀の神奈川県立観音崎公園内の「戦没船員の碑」で戦没・殉職船員追悼式が荒天の中、催され、辻同窓会長以下数名の同窓生が参列し、献花・追悼しました。

鳥羽商船の同窓生では戦没船員として210名が奉安されています。他に知る限りでは昭和47年に職務傷でなくなった1名の殉職船員も奉安されています。

母校記念館の1階にある「太平洋戦争戦没船員顕彰銘板」では224名が含まれています。その中で戦没船員の碑に奉安されている方々は、日本殉職船員顕彰会により調べていただいた結果は210名でした。(ホームページの記事を参照)







### 5 商船高専漕艇大会開催

第46回全国商船高等専門学校漕艇大会が母校を主管校として平成23年7月23・24日に開催となりました。ヨットの部は伊勢湾海洋スポーツセンター（津市）で、カッターの部は池の浦湾で開催となりました。同窓会としてカッターの応援と写真撮影を行いました。

5商船高専からそれぞれAチームとBチームが参加。鳥羽商船のみ更にCチームも参加しました。母校のAチームは5連覇のプレッシャーをものともせず、見事優勝しました。

よく頑張りました。多くの練習のたまものでしょう。  
「おめでとう！！」

又、Bチームも優勝となり母校のダブル優勝です。ヨットの部は大島商船が総合順位で1位となりました。



### 2011年度 故郷の海を愛する会の活動

#### その① 実施

伊勢志摩支部の有志による「故郷の海を愛する会」の活動その①が平成23年7月29日に52名の小中学生を集め実施されました。「鳥羽丸で行く、造船所見学と故郷の海山川」鳥羽丸での航海、ユニバーサル造船所での見学など、子供たちは暑い中、熱心に体験・勉強しました。



建造中の船尾をバックに全員集合

#### その② 実施

同様に、活動その②が平成23年8月18日に83名の小中学生を集め実施されました。「名古屋港で、自動化コンテナヤード・新造大型フェリーの見学」飛鳥コンテナヤードでは井上さん（S43N）の案内と、パイロットの大西さん（S36N）の説明を受け、太平洋フェリーでは岡田さん（S43N）他同窓生の案内を受け、子どもたちは楽しく体験・勉強しました。



自動化されたコンテナヤードの説明をうける



船内学習風景「どうして船は動くの…」



太平洋フェリー「いしかり」船橋の見学



## 同窓会会長挨拶

S32N 辻 裕



東日本大震災で被害にあわれた方々並びに福島原発の放射能汚染に苦しんでおられる方々に心よりお見舞い申し上げます。

去る6月12日に同窓会理事会・総会、慰霊祭、同窓会懇親会が開催されました。今回は4年ぶりに鳥羽の地元で伊勢志摩支部・四日市支部の担当のもとで支部

役員・事務局メンバー・母校に奉職中の先生方が一致協力して準備や運営に当たられ大盛会のうちに完了することができました。改めて関係された皆様に感謝いたします。

同窓会が新しい体制に移行して4年が経過しました。「同窓会の改革」を目指してスタートしましたがその成果を検証してみようと思います。

同窓会の目的である「会員相互の親睦・母校の発展に寄与する」を実現するには何をなすべきかに注力しました。

同窓会員全員が漏れなく参加できるように全国に同窓会支部を再編成しました。「会員相互の親睦」は各支部長が中心となって進めることとし、一年に一回は所属する会員に声をかけて支部総会・懇親会を開催して親睦を図ることとしました。支部総会には会長も参加することとし北海道支部、西日本支部をはじめ各地の支部総会に出席しました。

従来から鳥羽の母校で行われていた1年に1度の本部の総会・懇親会は遠方からの出席者の便宜を考慮して東京・中部・関西で順繰りに開催することとし初回は東京、21年度は名古屋、22年度は大阪でそれぞれの支部の担当で盛大に執り行いました。

同窓会の活動や母校の様子を会員全員に知ってもらうため「同窓会報」を平成19年版から全員に配布しています。その効果で今まで配布されていなかった会員が同窓会の様子を知ることができ、同封の振替用紙で自分の同窓会費の納入状況が判って過去の未納分を払ってくれるケースが増えてきています。これからも「同窓会報」は会費未納者にも漏れなく発送するので会費の納入にご理解いただきご協力をお願いいたします。

同窓会を運営してゆくうえで会員名簿の管理、同窓会費・資産などの金銭管理などなど沢山の事務作業があります。事務を執り行う人手がいますが専従員を置いて給料を支払うほどの資金は同窓会にはありません。同窓会本部事務局を設置し事務局長以下事務局員は地元の同窓会員のうちから選任し、すべて無給のボランティアとして働いてもらうこととしました。事務局員は自分の仕事の合間を利用して休日などに同窓会事務を執り行うこととなり大変な負担となっています。会員の皆さんに事務局の実情をご理解いただくと同時に改めてこのご苦労に対して感謝致します。

事務局員の負担を軽くするため会員や学校との連絡窓口として外部のTHCに同窓会事務を執り行う業務委託をしました。

百周年記念会館の一階に「同窓会事務室」を開設し、専用の電話・ファックス・パソコン・コピー機等を設置しTHCの西岡氏（同窓生ではない）が事務室に常駐し

ているので住所変更の連絡や会費納入などの問い合わせに活用して下さい。

次に「母校の発展に寄与する」ことについて振り返ってみます。

「船員教育創始者 近藤真琴・岩崎弥太郎 展」

鳥羽商船は今年で創基130周年を迎えました。我が国で最古の商船士官養成機関である母校をアピールするため、東日本支部が中心となって校祖、近藤真琴翁をたたえてパネル展を開催しました。

2009年1月に東京の「船の科学館」で海王丸の遠洋航海出船式にあわせ、同館敷地内の係留船羊蹄丸のロビーで16日間にわたってパネル展を開催し700名をこえる来訪者にアピールすることが出来ました。

高専機構・航海訓練所・日本船主協会・日本船舶機関士協会・攻玉社を来賓としてお招きし、オープニングのテープカットに参列いただくと共に商船教育と鳥羽商船の生い立ちを知っていただきました。

「故郷の海を愛する会」

伊勢志摩支部の有志が立ち上げたボランティア団体「故郷の海を愛する会」は日本財団の助成を得て、2009年から地元鳥羽・伊勢・志摩・松阪の小中学生にもっと海や船を知ってもらおう・馴染んでもらおうと活動を始めました。

毎年延べ人数で約200名の小中学生を集め3回の活動を実施・計画しており、同窓会も支援しています。

「5商船高専合同進学ガイダンス」

日本船主協会が主催する合同進学ガイダンスは中学生に対する進学案内の催しであり、2009年から実施され、東京・神戸・福岡など日本各地で開催されています。

同窓会の東日本支部、関西支部、西日本支部がこの活動に協力しています。

学校によれば、この活動のおかげで、商船学科への県外入学生が増えたとの事です。

明治14年(1881年)創立以来、航海科の卒業生ばかりでしたが、1899年に機関科、1985年電子機械工学科、1988年制御情報工学科が新設されました。

現在の会員数では航海科、機関科、工業系学科で概ね1/3ずつとなっています。

同窓会の役員は以来全員商船学科の出身者でしめられていましたが、2011年の理事会・総会で初めて工業系会員が理事となりました。同窓会活動に協力して頂いています。

今後益々商船系会員、工業系会員が一致協力して、同窓会活動を盛り上げ、母校の発展に寄与したいと考えています。



23年度懇親会で若い工業系会員と



# 学校だより

平成22年9月～平成23年8月

## ◎年間行事（暦順に掲載）

### 平成22年度商船学科卒業式・専攻科修了式（海事システム学専攻）

平成22年9月15日第39回商船学科卒業証書授与式・第4回専攻科（海事システム学専攻）修了証書授与式が10時30分より第2体育館で挙行政されました。

航海コース13名、機関コース22名、海事システム学専攻2名の学生が藤田校長より卒業・修了証書の授与を受けました。



### 平成22年度専攻科入学式（海事システム学専攻）

平成22年度専攻科（海事システム学専攻）入学式が10月4日に専攻科棟マルチメディア教室において挙行政されました。藤田校長から励ましの式辞が述べられた後、入学生代表から2年という期間はあっという間かもしれませんが、諸先生および先輩方のご指導、ご助言のもと、この専攻科での勉強を価値あるものにし、限りない可能性に挑戦したいと挨拶がありました。

### 海学祭（第45回）

平成22年度の海学祭は10月30日31日の両日「海学祭なうイイネ！」をテーマに開催されました。今年は昨年に引き続きフリーマーケットや新規の企画であるダンス等を計画するなど、実行委員長を中心に努力してくれました。また、練習船鳥羽丸の体験航海、サテコン、ロボコン、プロコン、卒業研究の紹介等も行いました。

### 全国商船高専漕艇大会

商船高専5校のカッターとヨットの大会である「第45回全国商船高等専門学校漕艇大会」が、平成22年11月20日（土）・21日（日）の2日間にわたり広島商船高専で開催され、カッターの部で見事Aチーム、Bチームともに優勝しました。

カッターレースでは、長さ9m、12人漕ぎのカッターを使用し、約9分間一瞬といえども息を抜くことが許されず、しかもクルー全員の呼吸が一致しなければなりません。

レースの見所は、ピッチの定め方、スタートダッシュ、回頭、ラストパートの巧拙、風浪、海潮流の対策などです。

ヨットの部ではFJ級2位、シーホッパー級SR2位、総合2



位と健闘しました。

平成23年度は本校が主管校であるため、今後、より一層の練習とシーマンシップを身につけ活躍を期待したいと思います。

### リーダーストレージング

平成22年12月17（金）～19日（日）に、乗鞍青少年交流の家において平成22年度リーダーストレージングが実施されました。これには、クラブ活動・学生会活動の活性化を目的として、学生会および各クラブの代表者30名が参加しました。

研修活動では、スキーおよびスノーボード実習を行いました。班別にわかれ、仲間同士助け合いながら楽しい雰囲気で行われました。

また夜の活動では、学生会行事やクラブ活動についてのグループ別討議が行われ、充実した内容の研修となりました。

### 平成22年度卒業式（電子機械工学科、制御情報工学科）・専攻科修了式（生産システム工学）

電子機械工学科、制御情報工学科卒業証書授与式並びに専攻科（生産システム工学専攻）修了証書授与式が3月4日に第2体育館で挙行政されました。

藤田校長から、卒業生一人一人に卒業証書が授与され、来賓、保護者、教職員及び在校生から祝福を受けて、学窓を巣立っていきました。



### 平成23年度入学式（本科、専攻科生産システム工学）

4月6日（水）本校第2体育館において平成23年度本科並びに専攻科の入学式を挙行政いたしました。

商船学科44名、電子機械工学科35名、制御情報工学科46名の計125名の本科新入生を迎え、生産システム工学科専攻科に13名を迎えました。

式では、藤田校長の入学許可の後、式辞が述べられました。在校生を代表して制御情報工学科5年の学生から新入生歓迎の挨拶の後、新入生を代表して制御情報工学科の入学生から代表の挨拶がありました。



### 新入生オリエンテーション

例年恒例である新入生のオリエンテーションを、4月21日（木）～22日（金）に奈良県の曾爾青少年自然の家で実施しました。

1日目は、曾爾高原の爽やかな風の下でのハイキングを行い、その後、校長による訓話がありました。夜の活動では班





別会議を行い、各班で決めたテーマについて様々な意見が出されました。2日目には、学生主事による話と、別会議の発表が行われ、2日間の活動を無事終了しました。

### 東海地区高専体育大会

6月25日から7月10日までの週末に、本校が主管となり第49回東海地区国立高等専門学校体育大会が、種目ごとに東海地区の各高専に分かれて開催されました。

多くの種目は7月2日3日に競技が行われ、本校では陸上競技（鈴鹿市宮石垣池公園競技場で開催）、バスケットボール競技（鳥羽市民体育館で開催）を担当しました。

女子ソフトテニス部が団体で初優勝を飾ったほか、柔道の個人戦でS3小林君が優勝し全国大会に出場するほか、男子バレーボール部が準優勝しました。

### 全国漕艇大会

7月23日（土）・24日（日）に第46回全国高等専門学校漕艇大会を開催しました。

大会はヨットの部とカッターの部の2つが行われ、ヨットは7月23日（土）、24日（日）の2日間にかけて伊勢湾海洋スポーツセンターにて、カッターは7月24日（日）に池の浦湾にて開催しました。この大会は、全国5つの高専（富山高専、鳥羽商船高専、広島商船高専、弓削商船高専、大島商船高専）が参加し、毎年行われる伝統ある大会で、今年度は本校が主管校として運営しました。

大会は、どちらの競技も熱戦が繰り広げられ、どのチームも日頃の練習の成果を存分に出し切り、白熱した大会となりました。カッターの部は、本校が優勝し第42回大会から5連覇となり、ヨットの部は大島商船が総合順位で1位となりました。

### 全国高専体育大会

全国高専体育大会は関東甲信越地区（茨城高専主管）で開催されます。8月13日から9月4日までの土日に各高専にて14種目が実施されます。

### ◎各種コンテスト

#### 日本生活支援工学会大会

#### アイデアコンテストで最優秀賞を受賞

平成22年9月18日に開催された日本生活支援工学会大会「生活支援を目的とした工学技術」高校生／高専生アイデアコンテストにおいて、本校学生が応募した「近未来の携帯救急医療支援端末」が最優秀賞を受賞しました。表彰された学生は、制御情報工学科の福井隼人君（5年）、中嶋亜美さん（3年）、松本知佳さん（3年）です。

応募したアイデアは、救急時の要救助者の病態を認識し、適切な処置を提案するとともに、必要に応じて救助を要請し、救急隊員への引継ぎを行う「救急の鎖」の機能を携帯端末に集約したものです。また、アイデア実現の第一弾として、一昨年より開発を進めてきた携帯端末で鳥羽市内の最寄りのAEDを検索するシステムについても紹介しました。今回、鳥羽市の協力により、鳥羽市内の公共施設に設置されている約100台のAEDについても検索できるようになりました。

今回の受賞は、日頃から学内外の皆様にご協力いただいている本校のAED啓蒙活動がバックグラウンドにあります。ご支援いただいている皆様に感謝いたします。

### 全国高専プログラミングコンテストで特別賞を受賞

平成22年10月16日17日に高知県高知市で開催された「第21回全国高等専門学校プログラミングコンテスト」の課題部門において、鳥羽商船高等専門学校制御情報工学科の「すれちがいステーション」班が特別賞（3位相当）を受賞しました。

本年度の課題部門のテーマは「旅とコンピュータ」で、旅の過程や目的地の魅力、面白さをどのように伝え、体験できるシステムを提案できるかで競われました。

「すれちがいステーション」班は、携帯端末としてiPhone（またはiPod touch）を持ち歩いているだけで、すれちがった人の持つスポット情報（食事、見どころなど）を自動的に収集しランキング表示するシステムを考案しました。自分の行きたい情報が手に入ったら、現在位置からの行き方をGoogle map上に表示するなど、従来の観光ガイドでは得られなかった、リアルタイム性のある情報収集システムを開発しました。また、店舗や名所の情報を配信するスポット端末としてiPadを利用したことも注目を集めました。

今大会には、「すれちがいステーション」班のほかにも、自由部門に2チーム、競技部門に1チーム出場しました。予選を通過して4つものチームを送りこんでいる高専は他になく、鳥羽商船高専の層の厚さを示しました。



### 衛星設計コンテストで奨励賞を受賞

11月20日（土）、第18回衛星設計コンテストの最終審査会が静岡科学館で開催されました。このコンテストは大学院や大学、高専生などが人工衛星の本格的な設計や惑星探査・宇宙生活などのアイデアを自由に選び提案し、専門家に審査されるものです。当日、アイデア部門では、東京工業大学、防衛大学、帝京大学および本校チームの4件の発表がありました。今回この部門には20件近くの応募があり、これら4チームが論文形式の一次選考を通過し、最終審査会で「奨励賞」を受賞しました。

本校のチーム（商船学科（機関）5年・山口康太君、制御情報工学科4年・野呂泰史君、商船学科（機関）4年・青木元君の3名）は、「宇宙用携帯脱臭装置」というテーマでアイデアの部に参加しました。無重力下の宇宙船内では空気の流れが自然対流が無いため、人や食べ物などから発生する臭いは一か所に留まり、大きな生活ストレスとなります。今回、無重力を利用して活性炭に振動を加えながら臭いを地上より効率的に吸収させる方法を開発し、その成果を発表しました。審査では、科学的な実験を含めた研究的内容が評価されたものと思われます。



## ◎注目クラブ活動

## 陸上部

平成23年度全国高等学校総合体育大会(インターハイ)の陸上競技が、8月3日(水)から7日(日)に岩手県の北上総合運動公園北上陸上競技場にて開催されました。

本校から、男子5000m競歩(全国11地区の予選を勝ち抜いた44名がエントリー)に出場した岩橋裕真君(制御情報工学科2年)が、決勝に進出し、本大会前の自己ベスト22分22秒41を大幅に更新する21分46秒16のタイムで6位に入賞しました。

8月4日(木)に行われた予選(2組、各組6着までと7着以下のタイム上位4名が決勝進出)では、レース序盤のポジションどりがうまくいかなかったことが尾を引き、自己ベストを更新(22分05秒06)しながらも、1組7位に終わりました。しかし、続く2組のレースの結果、7着以下のタイム上位3番目であったため、決勝進出が決まりました。

翌8月5日(金)の決勝では、暑さの中、粘りのレースを展開し、予選で出した自己ベストをさらに更新し、見事6位に入賞(2年生以下の最上位)しました。本校陸上競技部としては、初のインターハイ入賞です。

この結果岩橋君は、10月に山口県で開催される国体の三重県代表候補選手に選出されました。国体での上位入賞を目指しての挑戦が始まります。

## ソフトテニス部

平成23年6月25日(土)、26日(日)の2日間に渡って、第49回東海地区高専大会ソフトテニス競技が名古屋市の東山公園テニスセンターにて実施されました。

大会当日は晴天に恵まれ、卒業生も複数名応援にくる中、25日(土)に行われた団体戦において女子が優勝しました。団体戦メンバーは電子機械工学科5年生田直子さん(女子キャプテン)、商船学科4年機関コース吉村美紅さん、制御情報工学科4年片出沙奈さん、制御情報工学科3年橋井莉沙さん、電子機械工学科2年林佳歩さん、制御情報工学科2年富士井沙希さん、制御情報工学科2年山下純加さんの合計7名です。さらに、26日(日)に行われた女子個人戦において、生田・山下ペアが3位に入賞しました。

特に電子機械工学科5年生田直さんは昨年の第48回大会においても個人戦で3位入賞を果たしており、2年連続入賞となりました。

## ヨット部

6月26日(日)に行われた三重県ヨット連盟理事会にて、本校学生の2組4名が、今年山口県光市で開催される第66回山口県国民体育大会セーリングの部・三重県代表に選出されることが内定しました。

少年男子セーリングスピリッツ級には、商船学科3年の広瀬君と2年の林君が、少年女子セーリングスピリッツ級には、商船学科2年の服部さんと谷水さんが出場します。

今後、10月1日より開催される山口国体セーリング競技に向けて、夏休みを返上して練習を重ねて行く予定です。

## 少林寺拳法部

平成22年10月24日(日)、三重県営サンアリー

ナにおいて、みえスポーツフェスティバル少林寺拳法三重県連盟30周年記念大会が開催されました。本校からは、7名の学生が出場しました。近隣の会場での開催でもあり、制御情報工学科3年の西川由華さんが開会式と閉会式で太鼓を担当しました。

競技では、単独演武一般男子有段の部において、商船学科2年の内田宇紀君が最優秀賞を、制御情報工学科2年の山川晃永君が優秀賞を受賞しました。また、自由組演武一般女子有段の部において、電子機械工学科1年の大戸笑菜さんが鈴鹿高専に在学中のお姉さんと組んで出場し、最優秀賞を受賞しました。

## ◎地域活動・地域貢献

## ものづくり講座

## 「模型スターリングエンジンの製作」を開設

10月13日(水)に鳥羽・志摩理科教育研究会の教員(10名)を対象に、ものづくり講座「模型スターリングエンジンの製作」を実施いたしました。

この講座は、鳥羽・志摩地域に勤務する理科担当教員から、本校の体験講座に参加した生徒が「ものづくり」への関心が強くなってきており、教員も生徒の意欲がさらに向上するような授業を実践していきたい思いから講座開設の要望があり、今回の実施にいたったものであります。

講座では、佐藤テクノセンター長、廣地電子機械工学科教授から、「スターリングエンジンのしくみ」、「スターリングエンジンの製作」について説明があったのち、教員がテクノセンター職員のアドバイスを受けながら実際にエンジンの組み立てに取り組み、容器を加熱・冷却することによりピストンが動く仕組み体験していただきました。

## 池上町を対象とした「ロボット教室」、「AED操作の実技講習会」を開設



本校では、地元池上町を対象に10月23日(土)に小学生親子で楽しく遊ぶ「ロボット教室」、10月24日(日)には「AED操作の実技講習会」を実施いたしました。これらの講座は、本校が取り組む

地域貢献活動として、地元住民から強い要望があり実施したものであります。

「ロボット教室」は、親子23名が参加いたしました。出江制御情報工学科准教授から「手回し発電・クランク歩行メカ」の作り方を学んだあと、早速、製作に取り組み、「ものづくり」の面白さ・楽しさを体験していただきました。参加した小学生からは「楽しかった」「また来年も来たい」との多くの意見をいただきました。

「AED操作の実技講習会」では、一般の方26名が参加いただきました。AEDインストラクターの資格を持つ、坂牧制御情報工学科准教授から、「身近な技術で命を守る社会づくり」の演題で、「心臓のメカニズム」、「AED検索システムの使用例」などの講演のあと、参加者に「心臓マッサージの方法」や「AEDを使っでの対処方法」などを体験していただきました。参加者からは、「子供への対処方法」、「ネックレスやイヤリング、ペースメーカーなどが装着されているときの対応方法」などの質問があり、有意義な講習会となりました。



## 練習船鳥羽丸・名古屋港における体験航海及び日本丸セイルドリル見学航海

11月5日から8日、航海訓練所の帆船「日本丸」の名古屋港寄港にあわせて、本校練習船「鳥羽丸」の体験航海と学校紹介を兼ねた一般公開を行いました。「日本丸」ではセイルドリルと一般公開が実施され、多くの見学者で賑わいました。今年の新しい催しとして「鳥羽丸」による「日本丸」のセイルドリル見学航海を行い、来年度商船学科を志望する中学生が乗船して「日本丸」で訓練中の本校学生を含む実習生の活躍を海上から見学して頂きました。なお、体験航海では46名、見学航海では61名に乗船していただき、一般公開では1,433名の方たちに「鳥羽丸」を見学していただきました。今回、商船学科と制御情報工学科の3、4年生（約40名）および専攻科生（6名）が参加して運営や説明に携わり、この行事に貢献しました。

この度の航海において、多大なご支援とご協力をいた



だいた名古屋港管理組合ならびに（独）航海訓練所、その他本校OBを含む関係者の皆様に深く感謝いたします。

## ロボコン交流会の開催

1月6日（木）に、鈴鹿工業高専・鳥羽商船高専との連携・共同事業の一環として近大高専も含めてロボコン交流会を開催しました。交流会には、ロボットの製作及び全国高専ロボコンの運営に携わっている学生が、鈴鹿工業高専から12名、近大工業高専から4名、鳥羽商船高専から6名の学生が参加いたしました。

同交流会は、学生主体で技術面及び運営面においてレベルアップを図ることを目的とし実施し、午前中は全体説明の後、実習工場及びロボット製作施設の見学、全国高専ロボコンのDVD鑑賞を行いました。

午後からは、各高専のロボットプレゼンテーション及び回路系、機械系に分かれての討論会を実施した後、全体会での発表・討論会を行い閉会しました。

参加した学生からは、ロボットの製作に苦慮していることや、完成時の満足感など意見交換でき、大変有意義な交流会となり、次年度以降も継続して実施していきたい旨の感想がありました。

また、当日は忙しい中、株式会社ダイセン電子工業取締役の蟬正敏氏にかけつけていただき、午後からの討論会において助言をいただくと共に、企業及びエンジニアのお話もしていただき、学生たちにとって非常に刺激になりました。



## 鳥羽市総合防災訓練に鳥羽丸が参加

去る1月22日（土）鳥羽市小浜町（小浜漁協前埋立地）において、鳥羽市をはじめとする18機関が参加する鳥羽市総合防災訓練が行われました。

同訓練は、東海、東南海・南海地震により大地震が発生したことを想定して実施され、本校は、鳥羽市との「災害時協力協定」に基づき、鳥羽丸が地元漁船との連携による生活物資搬送・受け渡し訓練に参加しました。

又、学生も参加し、防災訓練本部、鳥羽丸及び本校無線室との無線による相互通信訓練も実施しました。

鳥羽市は、離島も多く、また陸路が遮断された場合には船舶による被災者の救援・支援は必要不可欠であり、今後、海上保安庁、市営定期船及び民間の船舶との協力体制の推進を図る予定です。

## 第5回 子育て応援！わくわくフェスタに参加

去る1月29日（土）・30日（日）に「第5回子育て応援！わくわくフェスタ」が四日市ドームで開催されました。

わくわくフェスタは、企業や地域の団体など多様な方々と一緒になって、子供や子育て家庭をささえる地域社会づくりを県民に広く情報発信を行い、子育て・次世代育成支援を図ると共に、企業や団体が相互に連携・交流し、地域づくりを一層推進する目的で開催しています。今年は、120団体の出展があり、2万5千人の来場者がありました。

本校は今回初めて、体験ブースに教員及び商船学科・制御情報工学科の学生が参加し、「船を動かしてみよう（操船シミュレータ）」、「リモコンで絵を描こう」の内容で子供たちに体験していただきました。

子供たちには、学生のアドバイスにより、シミュレータで様々な船を動かしたり、Wiiリモコンを使って自分で絵を書き、キーホルダーを作成し、持ちかえていただきました。2日間とも、大勢の子供たちで賑わい、大変有意義な体験をしていただきました。

## 日本高専学会論文奨励賞優秀賞を本校学生が受賞

日本高専学会が全国の高等専門学校専攻科生を対象に毎年実施している「論文奨励賞」において、生産システム工学専攻2年 杉本真佐樹君の論文「Ee-Class - Interactive Lecture Support System Using The Wii Remote」が優秀賞を受賞しました。

この賞は、学術的に優れた内容を有していること、論文の成果が国際的にも重要であること、地域社会や産業に役立つ内容を有していることなどの表彰基準により審査が行われます。今年度は、最優秀賞1名、優秀賞は杉本君を含めて3名が受賞しました。

## 災害避難所の検索システムを作成

本校、制御情報工学科の中嶋さんが、鳥羽市内にある最寄りの災害避難所の位置が携帯電話で分かるシステムを制作しました。

昨年、先輩らと制作した携帯電話でAEDが置かれている場所を検索するシステム（第10回日本生活支援工学会大会の高校生・高専生アイデアコンテストで最優秀賞を受賞）を改良した本システムは、津波、地震、風水害の災害別で避難所（計153カ所）が登録されており、GPSなどにより画面の地図上に現在地から近い9カ所までの距離と住所、施設名が表示されます。

指導教員の坂牧教授から昨年受賞したシステムを避難所検索システムに応用できるのではと助言を受け、昨年



12月から約5カ月かけ本システムを制作しました。鳥羽市は観光客が多く、緊急時の避難誘導に役立つものと期待されます。

本システムは携帯電話から <http://sakamaki-lab.ho01.jp> で利用することができます。なお、災害避難所の検索システムの記事が読売新聞(6/9朝刊)、伊勢新聞(6/19朝刊)に掲載されました。

### みえアカデミックセミナー2011を開催

三重県生涯学習センターとの共催で、7月9日(土)に「みえアカデミックセミナー2011」を同レセプションルームにおいて開催しました。

このセミナーは、県内の大学、短期大学、高等専門学校等の全15校の高等教育機関が連携し、各校の研究紹介や日常的な課題について公開セミナーを行うものです。

本校からは、電子機械工学科 廣地武郎教授が「雪や氷の冷熱エネルギーを利用した冷房」一般教育科 豊田尚子准教授が「変体仮名で中世のなぞなぞを解く」の演題で講演しました。

参加者から廣地教授に、この冷房の費用対効果の問題について等の質問があり、豊田准教授には、なぞなぞを考えた人達の時代について等の質問があり、活発な質疑が行われました。

### 公開講座

#### 「手作り太陽電池」が新聞、テレビで紹介される

去る7月28日(木)～7月29日(金)に公開講座「手作り太陽電池」を開講しました。

毎年、定員を上回る受講希望者があるこの講座は、電子機械工学科 水野教授と卒研生らが、中学生に太陽電池パネルの制作方法を指導し、太陽の光が電気になる面白さ、素晴らしさを実感してもらう講座です。

受講者は、はんだごてを使って、セルと呼ばれる半導体をつなぎ合わせるなどの作業を行い、楽しんでいました。また、「自然エネルギーのニュースがよく放映されるので興味があった」などの感想がありました。

なお、同講座は、新聞、TVで紹介されました。

### 練習船鳥羽丸が四日市港まつりに参加

8月6日(土)～8月8日(月)に本校練習船「鳥羽丸」は四日市港霞ヶ浦地区に停泊し、四日市港まつりに参加しました。本校からは教員他学生が34名参加し、8月7日(日)には練習船「鳥羽丸」の一般公開で船内説明やカッター大会の運営を行うと共にレースに参加しました。

カッター大会は参加チームが80を超える大きな大会でした。また、蒸し暑い中、小さなお子さんから年配の方まで380人の方々に鳥羽丸を見学していただき、大盛況のうちに終了しました。



### ◎講演会等

#### 五商船学科連携 WEB 講演会を開催

1月26日(水)に本校が担当校となり、5商船高専による現代GPの継続事業の一環としてWeb講演会を開催しました。本校卒業生で現在日本郵船(株)の一等航海士をなされている小西 智子氏を講師に迎えて、「こう見えても船乗りやってます～現代の船乗りは水陸両用～」と題した講演をして頂きました。小西氏は松阪市出身で、2004年10月に外国航路の貨物船における我が国初の女性航海士として採用されました。これまでに、全長338mもあるコンテナ船などで世界中を航海し、入社後わずか6年で一等航海士にまでなられた方です。

本講演会は、Web会議システムを使って、他の4商船高専及び全船協に同時配信され、質疑応答も行われました。本校では、商船学科3、4年生と教員の約70名が拝聴しました。講演は、「洋上での勤務」、「上司から言われた忘れられない一言」、「陸上での勤務」、「学生時代にやっておくべきこと」など有意義なものばかりで、学生にはとても良い刺激となりました。

### ◎施設・設備

#### 電子計算機演習室

総合情報センターでは、学生の演習用にコンピュータを更新しました。昨年度までは、2つの演習室で100台のPCを設置していましたが、今年度からは演習室を1つ増やして、合計150台のPCを導入しています。オペレーティングシステムには、Windows 7およびUNIX系のFreeBSDを採用し、プログラミングやCADなどの実習に利用します。もちろん、最新のオフィスツールもインストールされています。

#### 放電加工機

放電加工機は、金型加工に使用される合金鋼など硬い材料の高精度な形状の切断加工が可能です。そのため、研究・地域連携・実験実習及び複雑なロボコン等の部品・治具・装置類の製作に活用が期待されます。

#### 造波装置

海象を再現する風洞水槽において波浪を発生させる装置で、昭和49年に設置された装置の更新です。波高100mmまでの規則波、50mmまでの海洋波を再現する不規則波を作ることができます。

#### 船舶用発電・配電教育システム

本システムは、実船舶に即した発電、配電操作を実習する装置です。特に、実船舶では行えないような、緊急時における対処方法を実習します。これにより、初等機関士としての実践力を鍛えます。

#### 高速精密切断機

50年近く活用されていた砥石切断機を更新しました。水平下降タイプのバンドソーマシンです。この切断機で、従来より安全で容易に通常の切り落とし切断・金型加工・アリ溝加工ができます。

### ◎教職員人事

#### 宮林先生訃報

本校一般教育教授の宮林茂樹先生にはかねて病氣ご静養中のところ、平成22年9月7日に逝去されました。

宮林先生は、平成8年4月に本校一般教育に社会科教



員として着任されて以来、本科ではご専門の法学を初め、現代社会、経済学、また専攻科では企業法務の授業を担当され、社会の事象を常にわかりやすく講義され、長い間、学生の教育指導に尽くされました。

告别式は、9月9日に岡山県真庭市のやすらぎホール落合で行われ、本校関係者が参列して最後のお別れを告げました。ここに謹んで先生のご冥福をお祈り申し上げます。

#### 採用

- ・商船学科（航海コース）  
助教 吉田南穂子（平成22年10月1日付）
- ・一般教育  
助教 小澤 裕香（平成23年4月1日付）

#### 転入

- ・商船学科（機関コース）  
准教授 小川 伸夫（平成23年4月1日付）

#### ◎公開講座 平成23年度

夏休みを中心に下記の講座が行われました。

1. 手作り太陽電池 7月28日29日 中学生8名
2. 親子で電子工作 7月31日 小学生親子5組
3. Wii リモコンでゲームプログラミング  
8月1日 中学生15名
4. アマモ場から知る、伊勢湾の昔、今、未来  
(独立行政法人科学技術振興機構：サイエンス  
パートナーシッププロジェクト事業)  
8月2日 小学生、中学生30名
5. おもしろ理科実験 8月4日 中学生20名
6. 小学生のためのバレーボール教室  
10月13日、20日、27日 小学生20名

#### ◎同窓生の本校教職員

世宮 利郎 (S43E)	電子機械工学科講師
鈴木 秀司 (S48N)	鳥羽丸船長
竹内 和彦 (S47E)	鳥羽丸機関長
大野 伸良 (S56E)	鳥羽丸一等機関士
出江 幸重 (H3M)	制御情報工学科准教授
江崎 修央 (H4M)	制御情報工学科准教授
竹内 晃輔 (H7I)	総務課施設係
吉岡 裕也 (H16E)	テクノセンター技術職員
中井 一文 (H16I)	テクノセンター技術職員
濱口 沙織 (H17I)	テクノセンター技術職員



鳥羽商船同窓会ではホームページを通じて同窓会の親睦、母校の繁栄、更には海事思想の普及を図ります。そのホームページ上へのスポンサー（バナー広告）を募集しています。

<http://tobashousen-dousoukai.com>

鳥羽商船同窓会ホームページ  
バナー広告ご協賛企業

#### スポンサーサイト

登録

**Wetmaster**  
S32N 辻 裕



**YCS**  
人材派遣・紹介の総合サービス

水中高分解処理装置  
自動化計装システムエンジニアリング  
**E・T エステック株式会社**

海席料理  
大阪屋鳥羽店



鳥羽ビューホテル 花真珠  
女将 迫間まち(旧姓・山門)



## 校長挨拶

藤田 稔彦



今年は、本校の前身である攻玉社分校・鳥羽商船が明治14年に創立されて130周年、校祖近藤真琴翁の生誕180周年に当たります。昭和56年の創基100周年、平成13年の120周年に記念式典が挙行され、今年は特段の行事は計画していませんが、何かにつけ「祝130周年」を冠して参ります。

6月12日に鳥羽商船同窓会の総会が本校で開催され、総会の前に「校祖・卒業生・教職員物故者慰霊祭」が厳粛に執り行われました。また、午後には鳥羽国際ホテルで懇親会が開催され、辻会長のご挨拶のあと、私から本校の現況を報告しました。続いて木田鳥羽市長、内田全船協会長を始め来賓の方々のご挨拶でそれぞれ興味深いお話があり、若手OB・OGが多数出席されていて祝130周年懇親会は大いに盛り上がりました。

今年の入学者は商船学科44名、電子機械工学科35名、制御情報工学科46名で合計125名（うち女子16名）、生産システム工学専攻13名（同1名）です。4月時点での在籍学生数は、実習生27名、専攻科生35名、留学生4名を含め全部で655名（同96名）です。工学系学科への入学者は約8割が近隣の伊勢・鳥羽・志摩地区からであり、県外からの入学者は2名のみです。一方、商船学科は県外出身者が26名で半数以上を占めています。

入学志願者確保のため、教務主事室が中心となって例年どおり県下の中学校訪問、進学説明会等を実施していますが、さらに今年度から「入試広報室」を設置し、特に近隣の中学校に重点を置いて広報活動を実施しています。また、日本船主協会、全日本船舶職員協会、各校同窓会等のご支援による東京（今年は横浜）、神戸、福岡での商船5校合同進学ガイダンスや四日市、名古屋の港まつり等で積極的に広報活動を行い、優秀な学生確保に努めています。本校同窓会には、伊勢志摩支部による小中学生を対象とした「故郷の海を愛する会」等を通して多大なご支援をいただき感謝しております。

本校施設関係では、近年入寮希望者が増える傾向にあり、眺望の居室を増やすために順次改修を進めていきます。また、最近は授業日程や体育大会、インターンシップ等の学外行事との関係で、多くの高専が夏休み期間を8月の旧盆前後から9月末頃までとしており、本校もこれに倣う予定で、眺望居室へのエアコン設置計画を進めています。そのための電源工事は今年度中に完了します。旧白菊寮はほとんど閉鎖状態ですが、建物の一部は今なお課外活動や実験研究のために使用しており、昨年4月に策定した改修再利用計画案に沿って概算要求を行っています。京浜会館は、その処分が文科省、財務省に委ねられていましたが、このほど売却が決定されました。

今年6月25日からの第49回東海地区高専体育大会は本校が当番校で、主な戦績はソフトテニス女子団体と柔道個人90kg超級で優勝、バレーボール男子、柔道団体、剣道男子団体、空手道個人（形の部）、100m・200m背泳ぎで惜しくも2位でした。また、7月23、24日の第46回全国商船高専漕艇大会も本校が当番校で、津市で行われたヨットの部では大島商船が総合11連覇、池の浦湾でのカッターの部では本校が5連覇を達成しました。8月の全国高校総体では、2年生が男子5000m競

歩で本校陸上競技部初のインターハイ入賞を果たしました。

全国高専ロボコンは、平成16年の東海北陸地区大会優勝以後、残念ながら全国大会出場には一步及ばず、今年10月30日に岐阜市で開催される地区大会での巻き返しを期待しています。昨年10月の高知市での第21回全国高専プロコンでは、課題部門で特別賞、自由部門で敢闘賞2件を受賞しました。今年度は12月22、23日に舞鶴市で開催されますが、これまでの実績からも大いに活躍が期待されます。また、本校は衛星設計コンテストでも平成15年以降ほとんど毎年受賞しており、昨年11月の第18回コンテストでは奨励賞を受賞しました。

本校は平成20年8月にSP（シンガポール・ポリテクニク）のSMA（シンガポール・マリタイム・アカデミー）と学術交流協定を結びましたが、今年8月にこれを更新し、5年間延長しました。SMA乗船実習や年3回のSP英語キャンプには、毎回数名の学生が参加しています。また、昨年11月に商船学科を持つ5高専がハワイ大学KCC（カウアイ・コミュニティ・カレッジ）と交流協定覚書を交わし、今年3月のKCC国際教育プログラムには本校からも5名の学生が参加しました。

高専制度は、産業界の要請を受けて昭和36年に創設され、今年50周年を迎えました。また、全国の国立高専は平成16年に独立行政法人国立高専機構に東ねられ、今年度はその第二期中期計画（平成21～25年度）の中間に当たります。国立高専機構では、今後の50年を見据えて、この中期計画の柱に高専の高度化、すなわち社会の産業構造の変化に対応した学科の再編や教育の充実など、各高専がそれぞれの特色を維持し発展させながら、自主自律的な改革を進めることを掲げています。

国立高専は現在51校ですが、一昨年それぞれ同一県内にある2校を統合再編した4高専（仙台、富山、香川、熊本）が誕生し、高専の高度化再編モデルとして注目されています。本校と鈴鹿工業高専も、同じ三重県ということで、ポスト4高専の組上に載っています。そのため平成18年10月に鈴鹿工業高専との間で「統合再編検討委員会」を設置し検討を重ねて来ましたが、昨年8月に新たに「連携強化推進委員会」を設置し、この委員会の下に「連携推進部会」と「連携強化活動プロジェクト部会」を置いて共同で各種事業を企画・実施しています。

国立高専機構等では、これまで若年層人口の減少に合わせた学科減を伴う統合再編（スリム化）が主に検討されてきましたが、高専卒業生の実践的技術力が企業から高く評価され、就職率が非常に高いことから、最近ではスリム化よりもむしろ教育内容の一層の充実に重点が移行しつつあるように思われます。本校でも、入学志願者（特に女子学生）の増加策や鈴鹿工業高専との連携なども視野に入れ、今後5年間の教員採用計画とリンクさせながら学科再編・カリキュラム改革を進めていきます。

3月に予定していた昨年度の運営諮問会議は、東日本大震災により中止し、日を改めて5月23日に開催しました。井上委員長（神戸大学名誉教授）ほか外部有識者委員の皆様から本校の年度計画や諸課題について貴重なご意見をいただきました。なお、震災発生時は春休み中でしたが、宮城県、福島県へ帰省中の学生を含め、本校在籍者全員の無事が確認できました。

最後に、去る7月8日に元校長の佐藤修臣名誉教授が逝去され、正四位・瑞宝中綬章を授与されたことをご報告し、謹んで哀悼の意を表します。



# 本部報告

## 平成22年度会務報告（昨年度会報報告以降）

### 支部長会

平成22年10月30日の13:00から母校百周年記念館において開催を予定していましたが、台風接近が予想されたので、メンバーの参集はとりやめとし、書面開催としました。

その中で、会長からは役員交代に関し、会則で「会長は理事のうちから理事会で選出し、総会で承認する」となっているため、選出は次の方法で行いたいとのことです。

1. 理事の中から自薦・他薦で事前に会長に申し出てもらう。
2. 申し出が無い場合は、会長が候補者と事前に打ち合わせして理事会に推薦する。

事務局の議案・報告としては以下の通りです。

- ①平成23年度役員改選について  
平成23年度は役員改選になります。  
因って各支部は3月末日迄に新理事候補を事務局に提出して下さい。
- ②平成23年度の定例理事会・総会・懇親会の開催について  
平成23年6月12日、鳥羽において開催予定です。
- ③特別事業（故郷の海を愛する会）報告と承認について  
来年度（平成23年度）も同窓会が¥30万支援したい。
- ④特別会員の推薦について  
廣 耕太郎氏（伊勢市在住）を推薦する。

### 平成22年度主要活動（22年度総会以降）

- ①平成22年版同窓会会員名簿発行（6月13日）  
前は平成17年に発行しました。  
多くの会員から広告料を頂き大変感謝しています。
- ②「商船高専合同進学ガイダンス」支援  
平成22年7月17日 東京、24日 神戸、25日 福岡、  
において財団法人日本船主協会主催による、中学校進学担当教師や、中学生、父兄を対象とした進学案内の催しに、同窓会の東日本支部、関西支部、西日本支部が協力しました。  
学校からはおかげで県外入学者が増えたと感謝されています。
- ③全船協活動ウイークイン帆船日本丸 東日本支部が支援（8月）
- ④全国高専バレーボール大会支援（8月22日）
- ⑤同窓会報発行発送（9月27日）  
従来の全会員への配布に加え、在校生にも配布を開始しました。
- ⑥伊勢志摩支部有志の活動「故郷の海を愛する会」支援  
日本財団の助成金を得て、地元の小中学生を集め、船や海を知ってもらう活動を22年度に3回実施し、成功裏に終わりました。
- ⑦航海学会 鳥羽で開催を支援（10月27日～29日）
- ⑧海学祭に同窓会テントを用意し参加。（10月30日）  
辻会長、古川伊勢志摩支部長、事務局が同窓会をアピールしました。
- ⑨その他活動支援等

- i. 母校の商船学科及び工業系学科の卒業式・祝賀会に参列。
  - ii. 近藤真琴先生記念碑周辺整備事業（草刈2回）を実施。
  - iii. 全国規模の体育大会出場学生に奨励金を送呈。
- ⑩東日本太平洋沖大地震の被災者調査を東日本支部が実施、多くの会員が被災しています。お見舞い申し上げます。

同窓会の主たる活動としては昨年度並びに今年度の会報にも掲載しています。

## 平成23年度会務報告並びに計画

### 平成23年度同窓会理事会

平成23年6月12日（日）09:30から母校の潮騒会館に於いて同窓会理事会が開催されました。出席理事25名委任状19名にて理事会は成立となり、留意された議案に関し討議されそれぞれ原案通り可決されました。



議案に関しては以下の通りです。

1. 平成22年度会務報告
2. 平成22年度会計報告
3. 平成22年度会計監査報告
4. 平成23年度行事予定（案）
5. 平成23年度予算（案）
6. 役員・理事の改選と承認
7. その他
  - ①副会長交代に伴う運営細則の改訂の件
  - ②東日本大震災の報告と対応の件
  - ③日本殉職船員顕彰会 協賛会員となる件
  - ④「廣耕太郎」氏「杉田正純」氏、特別会員承認の件
  - ⑤同窓会の活性化について
  - ⑥6年後の高専昇格50周年に対する記念事業
  - ⑦事務局報告、各支部報告

議案の一つである22年度会務報告に関してはホームページに都度掲載された内容です。

役員改選に関しても原案通りとなりました。添付参照ください（25頁）。黄色アミかけ表示されているのは新任の役員の方々です。

議案「平成23年度の行事予定」も原案通り可決となりました。原案を添付します（21頁）。

「合同進学ガイダンス」が7月に3か所で開催されます。「故郷の海を愛する会」の活動が今年も日本財団の助成を得て3回実施となります。

平成24年度同窓会理事会・総会は東京での開催となります。



「平成22年度会計報告」と「平成23年度予算」に関しても原案通り可決となりました。添付参照ください。「平成22年度会計」では、収入に関して当初計画を少し下回りました。約¥9万の減収でした。

新卒者の入会金・会費納入について学校による学資金での徴収協力が得られなくなり、同窓会が保護者に送金をお願いする形となり、実績として大幅な減少となりました。又、一般会員からの受け取り会費も予想を大きく下回りました。その逆に寄付金収入が大幅に予想を上回りました。

支出は当初計画を¥23万程度下回りました。

収支合計では約¥13万の赤字となりました。

「平成23年度予算」に関して約¥43万の赤字予想となります。収入の部で、受け取り会費は22年度より少し多めに見積もりました。寄付金は少なめに見積もりました。会員名簿売り上げで¥80万程度見込んでいます。

支出の部はほぼ22年度に倣っています。

予算案が赤字である事にご不満の会員もおられることと思います。同窓会会計で受け取り会費、寄付金、名簿売り上げ等の予想が困難である事をご理解ください。同窓会役員並びに事務局は会計の健全化に一層の努力を致します。会員の皆様には会費の納入、ご寄付などのご協力をお願いします。

### 平成23年度同窓会・総会

引き続き、平成23年度同窓会総会は12日の11:10より母校の視聴覚教室での開催となりました。



会員75名が出席、総会として成立しています。

初めに来賓として参列された藤田学校長から10年間の学校の動きについて報告を受けました。

概略は以下の通りです。

- 鈴鹿高専との連携統合再編問題は棚上げ状態であり、現時点では連携を深めている。
- 校舎・学生寮の耐震補強は終了しています。専攻科の校舎は新設されました。
- 学校の夏休みを8月中旬から9月下旬の間とする方向で検討中。
- 白菊寮の再利用計画がまとまりました。
- 鳥羽丸は1994年竣工であり古くなってきています。
- 京浜会館は残念ながら売却が決定しました。
- 学生はクラブ活動などで頑張っています。
- 学生寮は落ち着いています。

校長からは同窓会・全船協・船主協会などの活動・支援に大変感謝しているとの話も頂きました。

その後、理事会決定議案の報告がなされ、承認されました。

ここではその他議案に関し簡単に説明します。

1. 副会長交代に伴う運営細則の改訂  
中澤副会長から山田副会長に交代の件で改訂。
2. 東日本大震災の報告と対応  
東日本支部が会員の被災状況を調査確認中。同窓会としての対応は会長に一任する。
3. 日本殉職船員顕彰会の協賛会員となる  
浦賀の殉職船員慰霊碑には戦没船員として同窓生が210名奉安されています。戦後殉職した同窓生も奉安されています。同窓会として顕彰会の協賛会員となる事としました。
4. 新特別会員「廣 耕太郎」氏、「杉田 正純」氏承認
5. 同窓会の活性化について  
言われるようになってから久しいのですが、同窓会に対する会員の関心が薄れ、会費納入も少なくなっていました。その対策として以下の事項を始めています。

#### • 同窓会総会・懇親会の開催地

平成20年から東京、名古屋、大阪、そして今回鳥羽で同窓会総会・懇親会が開催され多くの会員が集い、盛り上がりしました。今後も継続して行いたいと考えます。次回平成24年6月10日(日)は東日本支部が統括し、開催したいと考えています。

#### • ホームページの開設・運用

同窓会・母校の新しい情報を都度得ることができます。投稿欄では会員が趣味・特技、その他、投稿も出来ます。少しずつ会員の理解が得られアクセスが増え、昨年一日当たりの平均で30件を越えています。更に盛り上げる為に、各支部の支部便りの積極的なアップ、投稿欄へのクラス会等のアップを大いに期待しています。

#### • 同窓会報全会員に配布

以前は会費を納入している会員にのみ配布していたようですが、現体制となつてからは全会員に配布しています。更に、昨年から在校生全員にも配布を開始しました。早くから少しでも同窓会の活動になじむように期待しています。

#### • 若い会員、工業系会員の参加

今回の懇親会には江崎先生のご尽力も得て、20名を越える工業系会員が参加してくれました。

懇親会の会費に関して、子育て世代に配慮し、¥5000のところ、若手は¥3000としました。

若い人たちが継続して同窓会活動に加わる事を大いに期待しています。

尚、懇親会費に関しては、各支部の実情を鑑み、各支部で会費を定める方式としたい。

#### • 海学祭支援と参加

今までは協賛金を出すのみでしたが、昨年の海学祭ではそれに加え同窓会のテントを用意してもらい、同窓会役員・事務局が海学祭に来た同窓生の受け、記念館の案内、会員名簿販売、Tシャツ販売等を通して、学生と交流を行いました。

会員の方々には、海学祭を見に来て、今の学校を感じて頂きたい。

#### • 在校生活動支援(計画)

学生の活動に対し同窓会として支援金・報奨金を用意



し支援してきましたが、学生の理解が十分なされていないようでした。

同窓会をもっと身近に感じてもらうために、案として、同窓会の名前で「課外活動支援金」を募集したいと考えます。

応援用の横断幕（同窓会の名前入り）の作成費用支援とか、コンテストの製作費の補助等が対象となります。

#### ・役員連絡会議

Eメールを利用して、会長・副会長・各支部長・事務局長が参加して、定期的（例えば2カ月毎）に役員連絡会議（仮称）を開催し、同窓会の方針・懸案事項に関し十分なる討議を行えるようにします。

その時には、事務局並びに各支部の現況報告等も願います。

今年の工業系卒業式から学校の学資金による同窓会入会金、年会費、会員名簿代の引落し（徴収代行）はして頂けなくなりました。同窓会が夫々の会員に対し直接、納入をお願いするようになりました。その結果、現時点で6割程度の納入状況です。在学中に同窓会に対する理解をより深めてもらうことが必要です。

### 平成23年度会務計画・実績

#### (1) 平成23年度実施済活動

- ①日本殉職船員慰霊祭 参列（5月12日）  
 辻会長以下3名の東日本支部会員が慰霊祭に参列し、献花しました。  
 尚、日本殉職船員顕彰会に確認しました所、鳥羽商船同窓生では戦没船員として210名が奉安されています。  
 他に、戦後、殉職された方も奉安されています。
- ②攻玉社同窓会定例総会 来賓として参列（5月21日）  
 辻会長以下2名の東日本支部役員が来賓として参列しました。
- ③横浜港カッターレース「鳥羽商船錦浦会」で参加（5月22日）  
 多数の同窓生が応援に加わりました。
- ④記念碑周辺 草刈り実施 伊勢志摩支部同窓生ボランティア（5月31日、6月3日）
- ⑤理事会・総会：平成23年6月12日（日）09:30から鳥羽商船高等専門学校 潮騒会館・視聴覚教室において開催
- ⑥懇親会：平成23年6月12日12:30～14:30 鳥羽国際ホテル 宴会場「海城」において開催
- ⑦5商船高専合同進学ガイダンスを関係各支部が支援する。7月16日於：横浜、18日於：福岡、30日於：神戸実施済み
- ⑧日本財団助成事業（故郷の海を愛する会＝伊勢志摩支部有志）  
 7月29日 練習船「鳥羽丸」で行く造船所見学と故郷の海山川 実施  
 8月18日 名古屋港で自動化コンテナヤード・新造大型フェリーの見学 実施

#### (2) 平成23年度実施予定活動

- ①会報の発行 平成23年9月下旬に発行予定
- ②支部長会：平成23年11月12日（土）海学祭前日 於：「百周年記念会館」
- (3) 対外支援活動等（次頁 平成23年度行事予定参照）
  - ①母校の商船学科及び工業系学科の卒業祝賀会を協賛する。

- ②近藤真琴先生記念碑周辺整備事業（草刈2回程度）を実施する。
- ③「課外活動支援金募集」に沿い、在校生の活動を支援する。
- ④日本財団助成事業（故郷の海を愛する会＝伊勢志摩支部有志）
  - iii. 海学祭と学校の歴史・海の話（12月下旬を予定）
- ⑤母校の海学祭に協賛する。（11月13日）

#### 慰霊祭

6月12日総会に先立って母校近藤真琴記念碑前で多くの同窓生、学校職員参列のもと「校祖近藤真琴翁、卒業生・学校職員物故者慰霊祭」を行いました。



#### 鳥羽商船創基130周年記念 同窓会懇親会

6月12日、母校における同窓会総会の後、鳥羽国際ホテルの宴会場「海城」に100名を越える会員・来賓が集まり鳥羽商船の創基130周年を祝いながら平成23年度の同窓会懇親会が盛大に開催されました。来賓には木田鳥羽市長、内田全船協会長、中村県議会議員、西川鳥羽東中学校校長、福村UL Japan 人事部部長代理、土井根母校奨学後援会長、藤田学校長、伊藤（政）副校長、伊藤（文）学生主事、片岡寮務主事、合計10名の方々の御臨席を得ました。

今回の特筆すべきこととしてM科I科の同窓生合計23名が参加してくれました。母校に在職している同窓生も8名参加して大いに会場を盛り上げてくれました。参加者全員が熱く語り、飲み、食べ、歌い、大いに懇



親を深めることが出来ました。  
尚、懇親会の冒頭では今回の大震災で亡くなられた方々  
に対し黙祷を捧げ、被災地の早い復興を祈りました。



社会長挨拶



同窓生職員紹介



M科I科会員紹介



懇親会会場の様子

同窓会懇親会に参加して

制御情報工学科 平成14年卒業  
美和ロック株式会社 山口洋平

6月12日(日)に鳥羽国際ホテルにて開催された同窓会総会の懇親会に江崎教官からの誘いがあった美和ロック株式会社勤務の同窓生9名で参加させていただきました。これまでも、クラス会や学年会は何度か開いてきましたが、大先輩がたくさんいるような同窓会活動は初めてだったので、非常に新鮮な気持ちで楽しむことができました。懇親会では、鳥羽国際ホテルの美味しい料理やキャトルフィーユのトランペット演奏など普段経験できないような贅沢な気分を味わわせていただきました。

また、UL Japanからも9名、その他にも地元企業に勤める卒業生が参加していて、先輩や後輩とも顔見知りになることができました、これを機に地元にいる同窓生とも交流を深めていきたいと考えようになりました。



松本さんの乾杯



会員の歌





## 平成 23 年度行事予定

月日	曜日	時間	行事内容	関係者	備考
4月6日	水		入学式（本科 S.M.I. 専攻科生産）		
5月12日	木		戦没・殉職船員追悼式	会長・東日本支部	
5月21日	土		攻玉社同窓会総会 参列	会長・東日本支部	
6月11日	土	16:00～	(理事会・総会) 打合せ	会長・副会長・会計監査・ 主管支部役員	
6月12日	日	09:30～	理事会・総会・懇親会	会長・副会長・会計監査・ 主管支部役員・全会員	懇親会 伊勢志摩・四日市支部共催
7月16日 7月18日 7月30日	土 月 土		国立高専 商船学科 5校合同進学ガイダンス	横浜：東日本支部 福岡：西日本支部 神戸：関西支部	日本船主協会主催
7月29日	金		特別事業 鳥羽商船練習船「鳥羽丸」 で行く、造船所見学と故郷の海山川	伊勢志摩支部	日本財団助成事業。 故郷の海を愛する会主催
8月18日	木		特別事業 飛鳥コンテナヤード及び名 古屋港に停泊する太平洋フェリーの見学	伊勢志摩支部	日本財団助成事業。 故郷の海を愛する会主催
9月14日	水		卒業式 (N,E)・修了式 (海事)	会長・担当副会長・ 地元支部役員・事務局	
9月末日			同窓会会報発行	事務局	
10月3日	月		入学式 (専攻科 海事)		
11月12日	土	14:00～	支部長会 (一泊で翌日海学祭見学)	会長・副会長・支部長・ 事務局・地元支部、	
11月13日	日		海学祭 (協賛コーナー)	地元支部・事務局	ブース出店など
12月下旬			特別事業 商船学校の歴史・船と海 の話	伊勢志摩支部	日本財団助成事業。 故郷の海を愛する会主催
3月5日	月		卒業式 (M・I)・修了式 (生産)	会長・担当副会長・ 地元支部役員・事務局	

※6月12日総会後に変更のあった箇所は訂正しております。(8/18・11/12・11/13・12/下旬)

## 平成 24 年度行事予定

月日	曜日	時間	行事内容	関係者	備考
4月6日	金		入学式		
6月9日	土		(理事会・総会) 打合わせ	会長・副会長・会計監査・ 主管支部役員	
6月10日	日		理事会・総会・懇親会	会長・副会長・会計監査・ 主管支部役員	懇親会 東日本支部主催



## 平成 22 年度会計報告

## 平成 22 年度損益計算書

自平成 22 年 4 月 1 日～至平成 23 年 3 月 31 日

## 収入の部

科 目	22 年度予算	決算額	比較増減	備考
入会金	100,000	67,000	-33,000	M,I 科一括納入廃止
新卒者会費	200,000	64,000	-136,000	
受取会費(一般・特別・終身)	4,004,000	3,641,220	-362,780	今年度預り金繰り入れ 1,604,000
寄付金収入	400,000	908,000	508,000	
バナー広告収入	240,000	190,000	-50,000	
受取利息	41,236	22,812	-18,424	
雑収入その他	13,920	18,000	4,080	旧会員名簿
<b>22 年度収入合計</b>	<b>4,999,156</b>	<b>4,911,032</b>	<b>-88,124</b>	

## 支出の部

科 目	22 年度予算	決算額	比較増減	備考
支出負担金	405,000	665,000	-260,000	航海学会 300,000
総会費	1,246,437	1,490,391	-243,954	
支部活動費	780,000	780,000	0	
会報等関係費	1,065,460	939,949	125,511	
慶弔費	10,000	0	10,000	
旅費交通費	863,000	441,000	422,000	支部長会中止
事務用品費	335,100	254,905	80,195	角22封筒 164,850 振込用紙65,100
会議費	50,000	2,950	47,050	事務所開設により費用減。
会務運営費	340,445	343,001	-2,556	
外部委託費	600,000	550,000	50,000	
対外活動費	330,000	332,000	-2,000	故郷の海 300,000
会員名簿関連費	-1,116,440	-923,000	-193,440	印刷費支払い、売上収入含む
事務室備品消却	163,990	163,340	650	エアコン支払い減
予備費	200,000	0	200,000	
雑支出	0	0	0	
<b>22 年度支出合計</b>	<b>5,272,992</b>	<b>5,039,536</b>	<b>233,456</b>	
<b>22 年度収入・支出差額</b>	<b>-273,836</b>	<b>-128,504</b>	<b>145,332</b>	



## 貸借対照表

自平成22年4月1日～至平成23年3月31日

## 資産の部

流動資産の部 流動資産

	期首金額	期末残高	備考
現金	11,456	99,360	
普通預金	4,054,936	3,118,415	
第三銀行	38,514	100,645	
郵貯銀行	349,460	2,470,258	
百五銀行	3,604,682	330,592	
郵便振替	62,280	216,920	
定期預金	24,426,596	24,449,009	
第三銀行	4,376,958	4,384,623	
三重銀行	5,038,135	5,040,957	
郵貯銀行	9,983,425	9,989,317	
百五銀行	5,028,078	5,034,112	
現金・預金合計	28,492,988	27,666,784	

## その他資産

大科目	期首金額	期末残高	備考
仮払金	0	20,000	事務所手許金
事務所備品	0	816,700	コピー機など
その他資産合計	0	836,700	
資産の部合計	28,492,988	28,503,484	

## 負債・資本の部

## 負債の部

科 目	期首金額	期末残高	備考
仮受金	3,000	0	寄付金繰り入れ(会費の余り)
会費預り金	4,488,000	4,440,000	
終身預り金	1,310,000	1,500,000	
負債合計	5,801,000	5,940,000	

## 剰余金の部

科 目	期首金額	期末残高	備考
別途積立金	20,000,000	20,000,000	
繰越金	2,691,988	2,563,484	今期赤字額
剰余金合計	22,691,988	22,563,484	-128,504
剰余金合計	22,691,988	22,563,484	

	期首	期末
資産の部合計	28,492,988	28,503,484
負債・剰余金合計	28,492,988	28,503,484

## 会計監査報告

平成22年度期首、期末の銀行等の残高証明、手持ち現金の確認を行い、22年度収支に関しては領収書、金銭出納帳、各銀行等の出納記録と照合して監査した結果、いずれも正確かつ適正であった事を認めます。

平成23年5月31日  
 会計監査 飛田 喜八郎  
 会計監査 川口 心也



## 平成 23 年度予算

## 平成 23 年度予算

自平成 23 年 4 月 1 日～至平成 24 年 3 月 31 日

## 収入の部

科 目	22 年度実績	23 年度予算	比較増減	備考
入会金	67,000	97,000	30,000	S27 名、MI70 名卒業として
新卒者会費	64,000	54,000	-10,000	
受取会費（一般・特別・終身）	3,641,220	3,892,220	251,000	
寄付金収入	908,000	800,000	-108,000	
パナー広告収入	190,000	160,000	-30,000	
受取利息	22,812	22,812	0	
雑収入その他	18,000	795,000	777,000	会員名簿売上他
<b>23 年度収入合計</b>	<b>4,911,032</b>	<b>5,821,032</b>	<b>910,000</b>	
<b>繰越金取り崩し額</b>	<b>128,504</b>	<b>432,101</b>		
<b>23 年度収入総計額</b>	<b>5,039,536</b>	<b>6,253,133</b>		

## 支出の部

科 目	22 年度実績	23 年度予算	比較増減	備考
支出負担金	665,000	600,000	-65,000	卒業式祝賀、学生活動支援他
総会費	1,490,391	1,495,391	5,000	鳥羽で開催
支部活動費	780,000	780,000	0	従来通り
会報等関係費	939,949	939,949	0	
慶弔費	0	0	0	
旅費交通費	441,000	672,000	231,000	
事務用品費	254,905	254,905	0	窓付き封筒、振込票印刷他
会議費	2,950	2,950	0	
会務運営費	343,001	238,598	-104,403	
外部委託費	550,000	600,000	50,000	THC 業務委託料
対外活動費	332,000	356,000	24,000	故郷の海を愛する会 ¥30 万
会員名簿関連費	-923,000	0	923,000	名簿売上は収入欄雑収入その他
事務室備品償却	163,340	163,340	0	コピー機他償却
予備費	0	150,000	150,000	
雑支出	0	0	0	
<b>23 年度支出合計</b>	<b>5,039,536</b>	<b>6,253,133</b>	<b>1,213,597</b>	
<b>23 年度収入・支出差額</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	

23 年度収支は予算上で約 ¥43 万の赤字となります。  
会費納入並びに寄付金の協力をよろしくお願いします。



## 平成23年度 役員・理事名簿

## 本部

会長	1	辻 裕 S32N
副会長	4	山田 岑生 S37E
		藤本 昌之 S42N
		竹川 俊幸 S42E
		田中 三郎 S42N

相談役	3	松本 暢生 S26N
		桑嶋 収平 S31N
		菅原 昌男 S33N

会計監査	2	飛田 喜八郎 S36E
		川口 心也 S40E

事務局長	9	金田 護 S42N
事務局		武部 二三男 S38N
		溝井 昇 S42E
		三井 健次 S43E
		八木 菊平 S43E
		川原 伸次 S44N
		江崎 隆夫 S44E
		山口 伸輔 S48N
		北端 大志 H8N
学校連絡担当	1	江崎 修央 H4M

## 顧問

名誉顧問	1	落合 弘明 前同窓会長
特別顧問	3	藤田 稔彦 学校長
		伊藤 政光 副校長
		馬淵 憲治 事務部長

## 支部

北海道	支部長	奥田 宣夫 S48E
2	理事	吉田 均 S49N
東日本	支部長	水野 正治 S43N
10	理事	辻 裕 S32N
		菱田 司 S35E
		岩田 仁 S38E
		田中 三郎 S42N
		大橋 泰夫 S48N
		大橋 秀章 S49N
		菅原 秀樹 S51N
		星野 芳昭 S52E
桜井 薫 S54N		
中部	支部長	宗接 万太郎 S48N
6	理事	松浦 肇 S36N
		竹川 俊幸 S42E
		小林 正司 S43N
		菅沼 延之 S48N
		加塚 伸吾 S52E
四日市	支部長	室 博也 S55N
4	理事	中澤 昌信 S37N
		山田 岑生 S37E
		西井 育央 S61E
伊勢志摩	支部長	古川 昭一 S30E
13	理事	山神 慎之亮 S30E
		大西 彰夫 S36N
		武部 二三男 S38N
		金田 護 S42N
		溝井 昇 S42E
		三井 健次 S43E
		江崎 隆夫 S44E
		山口 伸輔 S48N
		塩野 明俊 S56E
		上村 健太 S63E
江崎 修央 H4M		
小田 純矢 H8E		
関西	支部長	籠田 弘之 S39N
7	理事	藤井 俊明 S39E
		藤本 昌之 S42N
		岡崎 和清 S48E
		岡室 孝美 S52N
		国安 政幸 S58N
		福田 美和 H7N
西日本	支部長	福岡 健彦 S33N
2	理事	山下 文徳 S41E
		44名



# 支部だより

## 北海道支部

支部長 S48E 奥田宣夫

北海道の多くの小中高は、夏休みも終わり2学期を迎えています。この動きに連動するかのように本日の気温は先週よりも低くなり、札幌・小樽では最高気温が21度の予報で秋の気配を感じております。明日には気温も多少上昇するようですが、これからは徐々に涼しくなっています。新聞・テレビ等では、「夏が終わった」と報じている北海道ですが、9月下旬から10月にかけては各地で紅葉の季節を迎えますので、本州方面会員の皆様方も、紅葉が早く見られてきれいな北海道にぜひ遊びに来てください、お待ちしております。

さて、北海道の会員数は、昨年度1名の転出がありまして、現在27名となっております。過去の支部活動ですが、平成23年3月12日(土)に北海道支部総会を開催するべく、案内文書を2月に支部会員に向けて発送したところ、私を含めて3名の出席がありました。当日、出席していただいた2名の方々には感謝申し上げます。少し寂しい会合でしたが、これからの会員多数のご出席に期待します。

支部総会は、平成21年度にリスタートしてから函館、札幌と2回実施し、函館が6名札幌が3名の参加ではありましたが、今後しばらくはこの2カ所順繰りに開催しようと考えております。今回は、12月か1月頃、函館での開催を考えておりますので、函館周辺在住の会員各位のご参加をお願いします。しばらくは、「総会」という重しを付けることなく定期的に函館と札幌とで「懇親会」を開催することで、親睦を深めていきたいと考えております。支部としての活動は、これといって報告することがないのが残念ですが、支部会員皆様の懇親会参加を当面の目標としておりますので、たくさんの方々にお気軽に参加していただきたいと思っております。

最後に、8月20日函館港における帆船海王丸のセールドリルを撮影してきましたので、その模様をご紹介します。海王丸には、7月から私の職場でもある海上技術学校(全国で4校)の乗船実習科の実習生が乗船しており、帆船実習2か月での総仕上げともいえるセールドリルを無事、終了しました。当日は、途中から強い雨にたたかれましたが、展帆完了間近には雨も上がり見学者も



H23.8.20 函館港にて

車から戻り多くの人が見守っていました。また、実習生は最後までしっかり作業して実習の成果を見せており、感慨も深かったことと思います。翌21日の一般公開も多数の参加者を迎え大盛況となり、午前中の参加者は見たところ600~700名くらいの見学者数でしたが、午後からはどっと人が押し寄せ大変混雑していたそうです。22日、月曜日には登檣礼(とうしょうれい)で函館と別れ、東京方面へと出航して行きました。

## 東日本支部

支部長 S43N 水野正治

東日本大震災から既に半年が過ぎようとしています。皆様ご健勝のこととお慶び申し上げます。

本年度の東日本支部としての活動状況及び支部総会開催について報告します。

### (1) 東日本大震災対応 (3月11日~7月5日)

東日本大震災で被災された皆様、ご家族、ご友人の皆様にご心よりお見舞い申し上げます。東日本支部としては、できる限り会員の被災状況を把握すべく、会員名簿から被災されたと考えられる会員を割り出し、担当を決めて主に電話連絡等で状況を調べるとともに、逐次ホームページにも掲載し情報を募りました。詳細はホームページを参照下さい。

### (2) 横浜港カッターレース (5月22日)

昨年に続き2回目の参加となりました。昨年のメンバーが中心となり5月7日に練習を実施して5月22日レース本番を迎えました。結果は4艇中1位の好成績でタイムは3分3秒と昨年より8秒短縮しました。お陰様で怪我もなく無事終了することができ関係者の皆様有難うございました。レース後の懇親会にて来年は更に若手1チームを加えた2チームでの参加を誓い合いました。

### (3) 合同進学ガイダンス (7月16日)

今年も「合同進学ガイダンス」が日本船主協会主催の元に、横浜の日本丸訓練センターにおいて開催されました。東日本支部としても全面的に協力することとし、少しでも参加者を集めるよう会員各自、地元の中学校に働きかけを行って戴きました。昨年同様地元の市教育委員会に出向き、市内全中学校にパンフレット・母校入学案内等を配布していただいた方もあります。

当日の参加者は、昨年より少し少なかったのですが、鳥羽商船ブースでは中学生や親御さんが集まり、熱心な質疑応答・意見交換が続いていました。この中から一人でも多くの入学生があることを祈念しています。

### (4) 東日本支部総会

日時 10月28日(金) 18時30分開始

場所 ナビオス横浜(横浜市中区新港2-1-1)

会費 5,000円(女性会員は3,000円)

帆船日本丸が近くに見えるところです。東日本支部会員皆様のご参加を心よりお待ちしております。別途、ご案内を送付いたしますので、是非ご参加をお願い申し上げます。

## 中部支部

支部長 S48N 宗接万太郎

### 雑感 - 夏の終わりに 2011-

節電を眩きながら暑い暑い夏が通り過ぎて行きました。幾度となく繰り返して襲ってくる青波のテレビ映像のあまりの強烈さに暫し息を呑み、これは第二の敗戦だと、直感したあの日からおよそ半年が過ぎましたが、メディアでの情報によって、頭では解っていても東北地方の悲惨な現実が未だに実感の薄い中部地区であります。とにもかくにも、東北地方の同窓が全員無事であったことに、安堵と同時に被災者の方々には哀悼の意を表したいと思います。

さて、中部支部では有志による親睦ゴルフと呑み会以外



には、これといった活動もできず、支部便りらしきの文が立たない故、例によって中部地区の巷（ちまた）の様子をツブやいてみることにさせていただきます。

1人あたりの製造品出荷額では、1日当たり450万円とぶっちぎりのトップ。全国平均220万円、第2位でも中国地方の280万円を大きく引き離している中部地区。日銀名古屋支店が発表した東海地方の9月短観では、前回調査より9ポイント悪化。バブル崩壊後、愛知万博、中部国際空港開港などのビッグプロジェクトを経て、「日本経済のエンジン役」を一身に担ってきたこの最強経済地区の中で起こった最大の衝撃、震災と超円高のダブルパンチによるトヨタ自動車の変調が最大の不安材料となってしまうのでしょうか？全国的にみた場合でも、震災直後に揃って数千万円の義援金を拠出された我々がNYK・MOL・KLの大手3社も、前期決算の数字はすこぶる好調ではありましたが、これから先はどう展開していくのやら、まったく先行きの読めない状況が続いています。

何の所縁もないのに母校同窓会総会に来賓としておいでいただいた名古屋市長。前代未聞の出直し市議選では、完勝ではないにせよ、見事「減税日本」で勝ち抜いたうえ、有名大物知事とタグまで組んだりしてしまったが、この頃少し苦戦気味。基本的には当同窓会報には政治的な話題はNGではあるものの、ひとつだけ云えることで、彼の名古屋弁には全国的にもデフォルメし過ぎ云々の非難があるようです。が、生粋の名古屋っ子の私が証明。あれはあり。我々以上の世代ではまさにあのまんま、頭が痛くなるようなコテコテが現実的で、しょうがないがや。

鳥羽市や伊勢市の小中学生83人が去る8/18、愛知県海部郡飛鳥村の飛鳥ふ頭コンテナターミナルを訪れました。こちらは、云わずと知れた世界初の自動搬送装置を擁するTCB、中部地区最大にして、最新鋭のコンテナターミナルである。貿易の流れや、コンテナの積み卸し、保管などの仕組みを説明され、スケールの大きさに子供達はたいそう感動していたようです。そもそもこのイベントは伊勢志摩支部の有志から成る「故郷の海を愛する会」の活動の一貫で、中部支部としては、なかなか同窓会のイベントが見つからない中、大変参考になったと思う。

話は変わりますが、今回の震災事故で原発の是非が、地球規模的に問われていますが、この子供達の将来を思えば、どれほど利便でも、やはり人間自らが最期の最後まで、コントロールすることの出来ない“モノ”は廃棄し、未来永劫にかかわるべきではないと思います。

当然の事のように今年の熱闘甲子園はやたらと東北のチームがクローズアップされましたが、オラが村の野球王国「愛知」をはじめ中京地区はこの頃サッパリ勝てません。強豪といわれた中京・享栄・名電などを撃破して甲子園に乗り込んだ至学館も敢え無く一回戦敗退。自前のグラウンドも持たない創部6年目のこのチームは、多くの野球少年に夢を与えたとか。とはいってもこの野球だけで、学力の伴わない子供はNGという昨今の私学の風潮のせいで、オラが村の高校が勝てないのも、なんとなく寂しいものです。就任以来の素晴らしい実績にもかかわらず、“キラわれもん”落合監督率いるドラゴンズは、今年是不調のようではあるけれど、まだまだ諦めるところまではいっていないし、天才とガッツのストイコさんのグランパスも連覇しそうな勢いで、中京地区のスポーツ事情は悪くはありません。

先日同窓会名簿で気づいたことがありました。小生の卒業時の昭和48年(88期)では、中京地区出身者(別の言い方なら名鳥会会員)は航機合わせて16名だったと思います。124期(少し前)では航機でたったの3名。パラパラと頁を捲ったら平成にはいつてからは殆どが三重県の子ばかり。決して地元学校化が、良い悪いを云っているわけではありません。海のロマンを求めて、遙か遠方から憧を抱いて集う心意気のようなものがない昨今を憂うのは、小生だけなのでしょうか・・・

## 四日市支部

支部長 S55N 室 博也

同窓会員の皆様方におかれましては、平素より鳥羽商船同窓会四日市支部の活動に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

最近の四日市支部の活動について3点ほど報告させていただきます。

まず、毎年6月下旬に開催している支部総会についてですが、今年度は、創基百三十周年ということで、鳥羽商船同窓会平成23年度総会と同日に、伊勢志摩支部と合同で、鳥羽国際ホテルにて開催いたしました。当日は、あいにくの天候となりましたが、四日市支部から計19名の同窓会員の出席がありました。

支部総会は、同窓会の総会及び懇親会との短い期間での開催となりましたが、同窓会員の中には、他の支部の同窓会員と久しぶりに再会された方もいたようで、昔話に話が弾むなど、いつもとは違った総会となりました。なお、今年度の支部総会では、役員体制についての議題があり、現在の役員を全員再任することをご承認をいただきました。

次に、全国高校野球三重県大会についてです。わが母校野球部は、7月18日(月)に強豪津西高校と対戦する予定となっていました。我々四日市支部から、室支部長を含めた自称商船野球部応援団を称する有志5名が、勇んで津球場に乗り込んだものの、折からの台風6号の影響により、順延となってしまいました。

このため、有志5名は、その帰途、母校野球部の健闘を祈り、事前祝勝会?を開催しましたが、後日行われた試合では、母校野球部は、残念ながら敗れ、相手高校である津西高校は、結果的にベスト4まで勝ち進みました。くじ運が良いのか悪いのか、母校の対戦相手は、今年を含め、当支部が応援観戦を開始した一昨年からは、甲子園出場実績もある強豪校ばかりであり、来年こそは悲願の1勝を勝ち取ってもらいたいものです。来年度も引き続き有志を募り、応援団を結成し応援に駆け付けたいと思います。

最後に、8月6日(土)に四日市港で開催された港まつりについてです。今年も、鳥羽丸が学生を乗せて来港し、うだるような暑さの中、鳥羽丸の乗組員の方々や母校の学生たちは、四日市港まつりのため全面的に協力していただきました。この場を借りて厚くお礼申し上げます。

なお、四日市港へ入港した鳥羽丸に対しては、四日市支部から田伏理事(H11E)が代表して、差し入れを行ったことを報告させていただきます。



## 伊勢志摩支部

支部長代理 S43E 三井健次

今年のお盆はとりわけ東日本大震災の鎮魂がこめられ、感慨もひとしおだった。テレビで見る被災地の灯籠流しは、流れに漂う灯りの美しさと手の届かぬどこかへ流れてゆく姿に、あらためて涙し犠牲者のご冥福をお祈りしました。

昨年の同窓会報出版後の支部の活動について簡単に報告します。

### 2010年「故郷の海を愛する会」の活動

伊勢志摩支部の有志が2009年に立ち上げた「故郷の海を愛する会」の地域の小中学生に船や海を知ってもらおうという活動は、日本財団の助成、母校、同窓会の協力を得て3年連続で実施出来ました。

2010年度3回目のイベント「海学祭と学校の歴史・海と船の話」は2010年10月31日の海学祭に合わせて計画していましたが、台風の接近が予想されたので一旦中止し12月19日に日を改め実施しました。

参加者：子供48名 主催者側：19名。

①同窓会会員が講師で子供たちに話をしてくれました。

- ・校祖近藤真琴の話 塩野明俊さん (S56E 元鳥羽少年探偵団団長)
- ・パナマ運河とニューヨーク 古川昭一さん (S30E 伊勢志摩支部長)
- ・ジェスチャーで家電を動かそう 江崎修央さん (H4M 母校 准教授)

②学校の施設見学と体験ではグループごとに以下を実施。

- ・操船シミュレーター室では操船体験
- ・内燃機関室ではエンジンの起動・停止体験
- ・壁面走行ロボットの操作体験
- ・ジェスチャーで家電の操作体験

### 5月31日 近藤真琴記念碑周辺草刈り

伊勢志摩支部の有志で母校記念碑周辺の草刈りを行いました。9名参加するも一日で終わらず、6月3日に残りを実施しました。

### 6月12日 鳥羽商船創基130周年記念 同窓会懇親会開催(四日市支部と共催)

6月12日、母校に於いて同窓会総会の後、鳥羽国際ホテルの宴会場「海城」に100名を越える会員・来賓が集まり鳥羽商船の創基130周年を祝い平成23年度の同窓会懇親会が盛大に開催されました。

### 2011年「故郷の海を愛する会」の活動

① 2011/07/29「鳥羽丸で行く、造船所見学と故郷の海山川」が52名の小中学生を集め、無事終了しました。

ユニバーサル造船所への鳥羽丸での航海では子供たちは船橋：航海計器、操船等の説明、機関制御室：船の推進、発電機の説明、デッキ：ロープワーク体験を受けました。

② 2011/08/18「名古屋港で自動化コンテナヤード・新造大型フェリーの見学会」は小中学生83名、ボランティア23名の参加のもと、無事成功裏に終了しました。この中には鳥羽市のサンタバーバラからの交換留学生4名が参加しました。

③ 3回目のイベントを12月末に「もうすぐクリスマス遊んで学ぼう！商船学校の歴史・船と海の話」募集予定人員50名で計画しています。

「故郷の海を愛する会」主催のイベントは鳥羽丸船機長を始め乗組員の方々、母校教職員の方々、現役学生、

の絶大なご協力と同窓生現役の方々、大先輩の方々に支えられております。毎回イベントを行うたびに、同窓会はありがたいな、先輩はありがたいな、後輩は頼もしいなと感謝しております。またこのイベントに参加した沢山の子供たちが海に興味を持ち、船に憧れ母校の商船系、工業系に進学してくれる子供が出てくれるものと信じて12月のイベントを成功させたいと思います。

## 関西支部

支部長 S39N 籠田弘之

同窓会報の原稿を書いている今は私の在住する神戸においても昨年同様に猛暑が続いています。同窓会員の皆様は如何お過ごしですか。同窓会報を配布する所は気持ち良い秋風が吹いている頃とおもいます。

昨年は大阪・神戸支部の合併、本部総会など大きな動きがありました。今年は昨年と比べ活動は少なかったが下記まとめました。

### 1. 大阪港カッターレースの応援

毎年7月に開催される大阪港カッターレースに昨年同様、母校学生が参加し、この大会を大いに盛り上げてくれました。



今年は5校対抗のカッターレースが鳥羽の池の浦で開催されることと、5連覇が懸かっており、また日程も迫っていたためカッター部に所属するメンバーは参加できず、カッター部を卒業した在学生でチームを組み一艇での参加となりました。

昨年参加した学生もあり、昨年の惜敗を糧に今年は優勝を目指すと思気込んでおりました。

レースは一・二回戦を順調に一位で通過し、準決勝に進みました。準決勝では予選最高タイムを出したチームが相手であったが0.28秒差と僅差で一位となり決勝に進出した。

決勝レースは昨年優勝、および最多優勝チームが相手に健闘したが3位に終わりました。

関西支部として弁当と飲み物を差入れし、また私と理事1名が応援に行きました。

### 2. 5校合同進学ガイダンスに参加

7月30日(土)に神戸で開催された5校合同進学ガイダンスに参加しました。(詳細は7頁「同窓会の活動」を参照下さい。)

### 3. 関西支部総会

支部総会は本部総会の後、7月ごろ考えておりましたが猛暑で参加が少ないのではと各理事と相談し、10月16日に延期しました。



### 西日本支部

支部長 S33N 福岡健彦

八月六日、広島では過去最多の六十六カ国の政府代表、国連事務総長を迎えて『平和式典』が開催されました。「平和宣言」では二人の被爆者の体験を引用しながら「核兵器廃絶」と「世界恒久平和」を訴え、更に今年3月に起こった東京電力福島第一原子力発電所の事故に鑑みエネルギー政策の見直し、具体的な対応策を求めています。

一方長崎では八月九日、初めて参加したアメリカ政府の代表を含め四十四カ国の政府代表者を迎えて式典が開催されました。

「平和宣言」では、その冒頭で原発事故に触れ、より安全なエネルギーを基盤にした社会への転換と原子力に代わる再生可能エネルギーの開発の必要性を強く訴えておりました。

文案起草の過程では委員の過半数が「脱原発」の文言を盛り込み、市民の意思を明確にするよう求めたが、市長の裁断でこの文言は入れなかったと聞いております。今、市民に二者択一を迫るような事を避けたように思われます。広島と同様「核兵器の廃絶」と「世界の恒久平和」を訴え続ける事には変わりはありませんが、原発に関してはより一歩踏み込んだ内容になっていたと思えました。七月十八日、福岡市内のエルガーホールで「五校合同進学ガイダンス」が開催され、同窓会西日本支部から私と山下理事 福岡在住の神子功氏中野正義氏の四名が出席しました。中学生の出席者は十人程で昨年より少なかったようです。前半の全体説明では卒業生で現役の若い航海士、機関士の生の話がわかり易く、中学生達の興味を引いたように思います。後半の学校別の個別対応では、鳥羽のブースにも数人が来て父兄と一緒に熱心に話を聴いておりました。福岡のガイダンスの出席者の中から瀬戸内三校を飛び越えて鳥羽に入学した生徒が二人居ると聞きました。

最後に「お知らせ」をひとつ 西日本支部では毎年九月の第一土・日曜日に下関付近で一泊の総会及び懇親会を開催する事に決めております。今年は九月三・四日に下関市内の「海峡ビューしものせき」で開催します。支部の枠はありませんので、この時期に西の方へ旅行を計画される方は是非ついでに参加してください、大歓迎です。



### 会員紹介

#### あこがれの外国航路・女性航海士に 鬼頭和江さん

平成22年9月16日付けの読売新聞の記事を紹介します。

#### 鬼頭さん、夢へ「船出」

女性航海士が採用されるのは、国内初だった2004年以来6年ぶりのこと。頑張ってください。

**あこがれの外国航路・女性航海士に 鬼頭さん** (高羽商船専修) 夢へ「船出」

鳥羽市国立高専商船専攻科の女性航海士採用されるのは、国内初となる。04年以降も再び、鬼頭和江さん(21)が、卒業生でもっとも憧れていた夢を叶えてもらった。和江さんは、高専で航海士として10月に採用される。同高専から外国航路に就く。和江さんは、高専で航海士として10月に採用される。同高専から外国航路に就く。

船では力があるがエンジン付きの船では男女の差は感じず、楽しく働けたと話している。和江さんは、高専で航海士として10月に採用される。同高専から外国航路に就く。

和江さんは、高専で航海士として10月に採用される。同高専から外国航路に就く。

#### 新特別会員 廣 耕太郎



私は、1978年に入学させていただき1982年(5回生4年・1年すこり)で見事退学になりました。理由は多々ありますが、最後は交通事故が原因でした。(謹慎はたったの8回)しかし、この度、三井先輩のご尽力により

同窓会に入会させて頂くことには心から感謝するとともに、また恥ずかしさも隠せないところであります。

退学後は沖縄大学に進み名古屋の新東通信という広告代理店に就職しました。三重県の所長をしながら、(社)伊勢青年会議所(伊勢JC)に入会し、8年間活動を続け40歳で伊勢市議会議員に当選させていただきました。現在3期目で伊勢市の監査委員をしています。

鳥羽商船時代の思い出を綴ると限がありませんが、男子校の全寮制という今では全国でも1、2校しかない特殊(笑)な学校でその厳しさは言葉に余るほどであり、入学した者でないと分らない事がたくさんあったと思います。私もかなり辛い思いもしましたが、殴られるより嫌だったのが、「寝るまで按摩(あんま)」でした。先輩に喜んでいただこうと一生懸命したのが功を奏して(笑)毎晩、白菊寮からお呼びがかかり寝不足でフラフラになった事でした。今では上さん相手に、その技を遺憾なく発揮しているところであります。つきましては、次回皆様とお会いする機会があれば「おい!按摩!」と言って下さい。すぐに馳せ参じ杵柄を披露させていただきます。しかし、気持ち良すぎて永遠に眠らないようにお気を付けて頂く事をお願いし、先輩諸兄とお会いできる事を楽しみにお待ちしております。



鳥羽商船カッター部の活動について

商船学科 准教授 瀬田広明

鳥羽商船同窓生の皆さん、はじめまして。商船学科航海コース教員の瀬田と申します。私は、平成10年3月に神戸商船大学修士課程修了後、本校に就職し、以来カッター部の顧問を続けています。現在のカッター部は、教務主事で商船学科の伊藤政光先生、同じく商船学科の境善行先生、そして艇庫職員の毛利純一技術専門職員の4名で担当しています。

赴任当時のカッター部は漕ぎ手12名が揃わず、漕艇大会等の試合では他の部活の学生に漕ぎ手をお願いして、即席のチームで出場していました。当然試合に勝てるはずもなく、全国商船高等専門学校漕艇大会では5位が定位置でした。しかし、クルー全員がカッター部員となると、試合での勝利意欲が窺えるようになりました。それに伴い漕艇大会での成績も上昇しましたが、なかなか優勝には至りませんでした。漕艇大会での優勝を目標に、学生らと共に練習方法や漕方法等、試行錯誤を重ねました(現在のピッチ、通常時26枚、スパート時30枚)。その結果、平成15年の漕艇大会で12年ぶりの優勝を果たしました。三連覇した後、一度惜敗しましたが、今年、7月24日に池の浦湾で開催された漕艇大会で勝利して五連覇を達成しました。ここ数年は2位のチームに10秒(3艇身)以上の差を付けて勝利しています。また、親善試合として行われるBチームも四連覇しています。さらに、主管校のみ出場させることができるCチームも健闘し、他の四商船のBチームよりも好タイムで勝利しました。

現在、カッター部員は約60名が在籍しており、鳥羽商船で最多の部員数となっています。優勝を機に部員数が増加した一方で、慢性的なオール不足に悩まされています。練習で折損したオールを再利用できないかと考え、学生と共に折損した木製オールを再生する手法(日本航海学会論文集 第118号掲載)を開発し、再利用していますが、補充しきれない状態が続いています。そのため、実習用のFRP製オールを借りながら練習を行っている状況です。木製オールでの練習環境が整っておらず学生には申し訳なく感じている次第です。



さて、漕艇大会以外の活動についてですが、年2回本校で実施される東海大会については、春季に三重大学との対抗戦を従来通り実施しています。秋季大会は三重大学、三谷水産高校との三校で試合を行っていましたが、ここ数年は、館山海上技術学校、清水海上技術短期大学、焼津水産高校が参加しています。今年は京都府海洋高校からも参加の申し出があり、計7校での試合を予定しています。また、各港で開催されている市民レース(6m艇)に出場し、鳥羽商船のPR活動も併せて実施しています。平成19年に開催された名古屋港開港100周年記念カッター競技大会では並み居る強豪を抑えて優勝しました。そして、昨年からは大阪港カッターレースに出場しています。結果は昨年6位、今年3位でした。来年こそ優勝しようと皆意気込んでいます。

ところで、今回の漕艇大会では前日から多くのカッター部OBが駆け付けてくれました。前日は現役学生との交流や試合時のアドバイス、夕方からはOB同士の懇親会として居酒屋にて盛り上がり、大会当日は応援、そして、試合後にはOB同士で海に漕ぎ出して学生時代の思い出に浸っていました。また、懇親会時にカッター部OB会および連絡網を組織して欲しいとの要望が出されましたので、まずは連絡網の整備を行いたいと考えています。カッター部OB・OGの皆様におかれましては、連絡網に登録するためのメールアドレスを連絡いただければと存じます。

以上、思いつくままにカッター部の近況を書かせていただきました。最後になりましたが、各試合の開催時には同窓生の皆さんから飲食物の差し入れや多くの激励を頂きました。この場をお借りしてお礼申し上げます。



五連覇を達成！！





# クラス会

## 「S40N&E 卒クラス会を開きました」

幹事 平井 報告

鳥羽のビューホテル花真珠で、平成22年9月5日(日)にクラス会を開きました。

当日は残暑が厳しい日でしたが、22名が集合しました。前回のクラス会から2年ぶりです。

食べきれないほどの料理と飲み放題で、昔話がはずみました。2次会ではカラオケに大いに盛り上がりました。そんなに歌が好きだったかと思うような人もいてサプライズもありました。

毎回同じですが、時間を忘れ、すっかり昔に戻ったようでした。

翌日はゴルフ組、観光組などに分かれ、又、2年後の再会を約束して、名残惜しくそれぞれの現実に帰りました。



参加者 添付写真後列向かって左から  
坂崎、平井、大浦、関口、井上、樋口、川口(心)  
小川(雅)、片岡、川田、鴨志田、中久木、古屋、若林、山下、  
和田、三村、渡辺、坂口、丹羽、山本(一)、木下

## 新年会

平成23年2月1日夜、新橋のいつものところに12名が集合、昨年秋の鳥羽でのクラス会以降の集合となり、遅めの新年会となりました。

何十年ぶりかで杉田が参加。元気な姿を見せてくれました。又、上総の次男も飛び入り参加となりました。

話題は夫々の現況・健康状態・趣味などなど。

現役の減少につれて、だんだんと仕事の話は少なくなり、健康に関する話がふえました。

ちょっとさびしいですね。

仕事が多忙で、先に帰った上総が抜けています。



参加者は写真で向かって左から。  
若林、川口(奥)、鴨志田(手前) 坂崎、三村、川田、関口、  
渡辺、板垣、平井、杉田

## 国立八期生(78期)クラス会

文責: 松浦 肇

S36年本科卒(航機合同)のクラス会は2年毎に関東、関西、中京の3地区持ち回りで開いているが、今回は中京地区担当ということで、昨年11月21日(日)木曽川河畔の犬山で開催した。温泉付きという要望が強かったこともあり、会場は「名鉄犬山ホテル」ここには「白帝の湯」という天然温泉があり、近くには国宝犬山城や紅葉の美しい「有楽苑」があり、各々楽しんだようだ。クラス会参加者は25名+奥様同伴11名で計36名。ちなみにここ4回は奥様同伴が慣例化しており、奥様方の付き合いも増しているようで、旦那のクラス会開催を楽しみにしておられる奥様方も多い。今回は母校教官退職後交通事故で九死に一生を得た「森良雄」氏も不自由な身体ながら奥様の同伴で参加され、まだ後遺症は残るものの先ず先ず元気な姿に一同安堵し、再会を喜び合った。

記念写真撮影の後18時から着席ブッフェ形式でクラス会開催、先ずは物故者に黙祷、我々のクラスもすでにN科4名E科3名の7名が鬼籍に入り毎年1人ずつ減っているようで寂しい限りである。今回も大阪豊能から参加してくれた「友田修(E科)」氏がこの後2ヶ月を経ずして多臓器不全で急逝されたことを残念ながらお知らせしなければなりません。

さて、久しぶりの再会にクラス会の方は大いに盛り上がり、最後は同窓会作成の船歌CDをバックに「練習船の歌」「海のロマンス」「鳥羽商船寮歌」と若き時代に戻り、声を張り上げ歌いました。散会後も概ね全員が2次会会場に移動して大いに飲み、歌い、語りました。

翌日は生憎の雨天となったが、明治村観光に21名が参加し、折からTV放映中の「坂の上の雲」に使用されたSLに乗ったり、また東京大学予備門のロケに使用された旧三重県庁舎等、紅葉に映える明治時代を散策、昼食は洋食屋「浪漫亭」で明治のカレー等を味わった後、今度は箱根辺りでの再会を約し解散となりました。



## 船歌集CD 好評発売中!!



なつかしの船歌がカラオケで13曲収録されています。

もちろん鳥羽商船の校歌・寮歌も…。



# 同期会 (76 期) 開催について

S34N 下川公一 記

卒後 50 年、記念すべき年、新緑爽やかな 5 月 9 日、幹事細川さん、船さんのお世話により、70 歳の坂を越えて恩師とともに同期会に参加できた恵み、本当に感謝でした。今年 は 3 月 11 日の東日本大震災(9.0 の大地震、大津波)、福島 の原発事故、未曾有の大災害で、御家族を亡くされ、被災された多くの方々の事を思うと、心重く、参加を躊躇する気持ちが働きました。されど心許せる同期と励ましあいたく、淡路島「スプリング G・A リゾート淡路」へ、木戸先生をお迎えして、遠くは千葉、東京から、石崎さんは手術を目前に御夫婦で、それぞれ事情ありつつも、下記の通り 15 名が集いました。例のごとく、和気あいあいの夕食、語らい、翌日はゴルフ、観光、帰路と、それぞれ沢山の物心両面の土産と共に、来年は幹事林さんで、元気に伊勢近辺での再会を期したところです。

心ならずも参加できなかった友では、体調不良が多く、やはり歳？。元気なのは伊藤興生氏、バリバリの機関長で遠洋航海へ、増田氏は高校長を終えて単身北海道で晴耕雨読の日々等、現役で活躍している面々も多い中、同期の約 3 分の 1 が既に旅立ち寂しさと悲しみを覚えます。

この 8 月、戦後 66 年、戦前、戦中、戦禍に散り、呻き、又、戦後、復興に辛苦の御苦労された先輩諸兄、そして今、豊かになった経済大国の国難、この体験を無にすることなく、必ず立ち直ると信じ、素晴らしい先輩、後輩諸氏と共に、明るい未来を期待して、残された人生を元気に生きて行きたいと思います。

東日本大震災に被災された皆様、ご遺族の方々の上に、大いなる慰めと憐れみ、必要の満たしが豊かにありますよう、そして、皆様のご活躍、お幸せとご健康を、心からお祈りいたします。



「参加者」木戸先生（奥様は翌日参加）  
 (N) 石崎夫妻、岩佐、下川、野田夫妻、林夫妻、細川夫妻、船。  
 (E) 猪野、久堀、須貝。（敬称略、あいうえお順）



## 黄綬褒章受章

平成 22 年 11 月 3 日に以下の同窓生が黄綬褒章を受賞されました。

おめでとうございます。

- 宇野憲治さん S33N 大阪湾水先区水先人
- 櫛田完次郎さん S33N 伊勢三河湾水先区水先人

尚、「春秋褒章」について以下参照ください。  
 自己の危難を顧みず人命の救助に尽力した方を対象とする紅綬褒章、社会奉仕活動に従事し顕著な実績のある個人等を対象とする緑綬褒章、その道一筋に業務に精励し衆民の模範である方を対象とする黄綬褒章、学術、芸術、技術開発等の功労者を対象とする紫綬褒章、教育、医療、社会福祉、産業振興等の分野で公衆の利益を興した者又は保護司、民生・児童委員、調停委員等の事務に尽力した方を対象とする藍綬褒章があります。これらについては、毎年春は 4 月 29 日に、秋は 11 月 3 日に、春秋叙勲と同日付けで授与されています。

## 西川慶堂さん叙勲

西川慶堂 (S17N) さんが平成 23 年 6 月 1 日付け高齢者叙勲において旭日単光章を贈られました。

誠にありがとうございます。

高齢者叙勲は春秋の叙勲とは別に米寿の 88 歳になった機会に贈られるそうです。

西川さんは鳥羽市議会議員として活躍されたのが評価されたものです。

尚、西川さんから同窓会に多大なるご寄付を頂きました。有意義に使わせていただきます。





## 会員の投稿

・ ホームページに投稿された記事です。

### 東北地方太平洋沖地震 伊勢の人

3月11日はたまたま仕事で東京の品川にいました。午後の地震で、仕事は中止、帰り際、電車が止まっており、タクシーはつかまらず、結局、横浜の宿まで24km、6時間歩いて帰りました。普段歩いたり運動をしているのが役に立ちました。(今になって疲れが出てきていますが) 会員の皆さんのご無事を祈っております。

### 東北地方太平洋沖地震体験 茨城人

私は11日の当日、茨城の実家で田舎暮らしをして地震に遭遇しました。後で調べたら、震度6弱とのことでしたが、勿論経験のない揺れで立てられない位でした。当時外にいたのですが太い庭木が揺れて怖い位でした。一応治まって、各部見回りましたが、風呂のタイルの一部が崩れた位で屋根の瓦も無事で、大きな被害はないようで安堵しました。周囲は瓦の一部が崩れたり、大谷石やブロック塀が倒れた家もありました。その瞬間から停電、断水となり、電話も通じず原始的な生活を余儀なくされました。

翌日、XXの家族と連絡がとれこちらは無傷であることが判明し安心しました。

道路や橋もダメージがあり、各所で通行止めになっているとのラジオニュースで、常磐高速も常磐線も不通でした。

それとガソリンが入手できませんでした。私は通常なら充分帰れる量のガソリンは持っていましたが、渋滞があったりなにかあれば途中で給油できないことが予想されたのでそのまま留まっておりました。停電で暖房がなく、蠟燭の明かりでラジオだけがニュースソースでした。それでも私一人でしたのでもうXX歳まで生きてきたのだから、それ程惜しい命でもないと考えたら非常に気持ちになり、強い余震も度々ありましたが、フトンの中で「又か」と思いながら寝ておりました。

困ったことは食事でした。炊飯器が使えないので、近所の奥さんにおかゆの炊き方を教えて頂いて何とか凌いで来ました。14日の早朝電気が復帰しほっとしました。15日に水戸-東京間の常磐高速が通行可能となり、16日午後XXに帰ってきました。小生の経験から、非常食はカップ麺と缶詰めが便利です。電池の買い置きは絶対必要です。未だ、避難生活をされている方には申し訳ありませんが、普通の生活ができる有難さを噛みしめています。昨日義援金を小額ですが募金に応じてきました。後日、知ったことですが、電話専用ラインは通話できたようです。ファックス付の電話は停電だと使えません。(小生宅はファックス付なので使用不能でしたが、近所の電話は通じることが解り借りて家族と連絡とりました。

携帯は全然通じない間にバッテリーが切れて、チャージできずに結局何の役にも立ちませんでした。ラジオは少し良いものを持つべきです(単II電池の物が長持ちして安心です) 茨城放送というローカル放送が非常に有意義でした。

東京の放送は主に東北の大きな被災地の状況と原発のニュースで自分達の知りたい情報はローカル放送が何よりでした。

### 東北地方太平洋沖地震 狭山市もみたん

今回の大震災では同窓生の皆様ご無事で何よりです。しかし、ご家族、親戚、友人には被災され大変ご苦労されている方もいらっしゃると思います。改めてお見舞い申し上げます。

今回の地震では仙台の息子の事がとても心配でした。リアルタイムに津波の画像が送られてきている。名取川の見慣れた景色に津波が逆流してきている。「アッ、息子の家が…」次の瞬間、逃げられたのかしら? 無事でいて! もう携帯も電話も繋がらない、そうだ! 災害伝言板だと、すぐさまインターネットから検索した。お嫁さんの携帯番号入力、「今、市役所につきました。取りあえず無事です。大変なことになっています」それから2時間後息子は、「六郷中学校について、無事」とあった。その後、市役所で合流したらしい。良かった! 生きていた! 家は流されても命は助かった。息子の住んでいるところは名取市でした。

広域避難所は日和山という所で海拔7mとのことでしたが、お嫁さんはそれを知らずに便利そうな市役所をめざしたと言っていました。反対車線(海方向)は車の渋滞、彼女が行く方向は空いていて、ここが運命の分かれ道になってしまったのです。夜は寒く、ガソリン不足も知らなくて車の中で暖をとって休んだとか。すやすや寝ている孫の写真がブログにアップされていました。携帯は繋がりにくく、携帯からブログにアップしていただくことで息子たちの情報を得ることができました。

若い二人、これからやり直せる、頑張れ! こちらからは何も手伝いできない歯がゆさを感じています。ライフラインが復活したらすぐさま迎えに行つてやろう。抱きしめてあげたい。こんな状態でした。毎日たくさんの方からお見舞いのメールやお電話を頂き、ありがたさを実感しています。

### 横浜港カッターレース 参加報告

「鳥羽商船艇 見事完走 タイム3分03秒 8秒短縮」  
山下公園前で開催されましたカッターレースは、怪我人・途中棄権もなく無事終了いたしました。多数の同窓生の参加をいただき、久しぶりに楽しい1日となりました!



艇員は今年も当日比較的良好コンディションの良いメンバーから選出しS51N卒を主体に構成されました。艇長は次期支部長候補水野さん(S43N卒)が務め、見事な舵さばきを見せました。が、エンジンは今年も予感の的中、後半やや失速するも、対戦相手にも恵まれ1位でのゴールとなりましたが、予選通過タイムに届かず惜しくも予選敗退となりました。ゴールタイム3分03秒。このタイムが今後の基準タイムです。来年はこのタイムをはるかに超える2分前半が目標となります。 エ——。



お疲れ様でした。来年もがんばりましょう。そして、楽しみましょう。ありがとうございました。



レース後 中華街にて打ち上げ、そして来年に向けての大反省会を行っています！！  
朝早くから準備をしていただきました菅原さん(S51N 卒)はじめ、多くの同窓の皆様に支えられ、大会参加を終えましたこと、ここにご報告いたします。 大橋(泰)記

**太平洋戦争で戦死した先輩の遺族を案内 松本 暢生**

伊勢病院で手の怪我を治すため、1週間の入院をした際、同じ病室で昭和3年機関科卒業の大先輩星新一さんのご遺族の方と偶然一緒になりました。学校には戦死された方々の銘板もあり、慰霊碑も建ててあるので、学校見学に是非おいで下さいとお誘いしました所、3月20日の午後に来て頂きましたので、百周年記念館の中をご案内して、近藤翁顕彰碑の横にある慰霊碑にも参って頂きました。これまで一度も学校に御出でになった事もなかったもので、このような慰霊を学校で行っている事はご存じなく、非常に感激されてお帰りになりました。

ご本人のかすかな父親の思い出として記憶にあるのは、4才の頃、ドックに行ってお楽しかった事があるようですが、亡くなられた先輩の心情を察すると、平和な時代に外国航路に乗船できた幸せを強く感じました。

**記念艦 三笠 日本海海戦 ワンコの名はピピ**

先日の健康診断後の、産業医面談で出勤した後、「記念艦 三笠」に行ってお来ました。5月27日は「海軍記念日」、日本海海戦の行われた日です。三笠が復元されて50周年の記念の日に当たり、通常500円の観覧料が無料でした。三笠艦上は終戦後GHQに接収されて、上甲板はダンスホールなどになっていましたが記念艦として復旧して、平成4年には「海軍遺産賞」と言う、世界造船史に輝く賞を貰ったそうです。わたしも、数回観覧しましたが、最後に行ったのが20年ほど前だったので、中が随分整備されたのを感じました。NHKの「坂の上の雲」が人気で、横須賀の彼方此方でポスターを見ます。

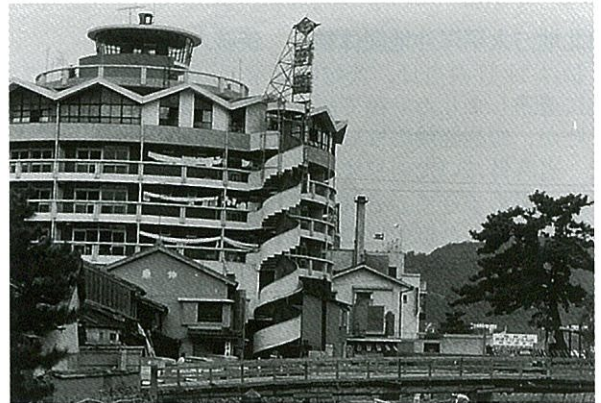


**終戦直後卒業の諸兄へ 浅井 五六 (旧姓 江尻)**

私は昭和21年機関科卒(63期)です。  
クラスメートは随時歓談の機会がありますが、前後の方はなかなか機会がありません。お陰様でこの6月で83歳となり、なんとか自立生活を保っています。過ぎし日を思い返しながら集約期を過ごしています。  
皆様のご健勝をお祈り申し上げ、私の近況報告と致します。  
五六 拜

**50年前の写真 伊勢の人**

我がクラスメイトがリタイアして時間ができたので古い写真を整理していたところ、学生時代の鳥羽の街や学校等の写真を見つけたので、送ってくれました。  
昭和37年ごろと思われます。今は使われていない白菊寮が当時は完成したばかりでした。  
校舎は古く、学校の前を走る国道も今と違いますね。裏山は今は開発されてしまっています。  
これらの写真を見てしばし50年前を思い出しました。



平成22年度版  
**同窓会会員名簿発売中**  
ご希望の方は事務局にご連絡下さい  
「個人情報の取り扱い」には十分に  
ご注意下さい。譲渡はご遠慮下さい。



『健康一番 スコアは二番』親睦旅行 関東支部左衛門

関東支部親睦旅行 西伊豆『戸田会談』の前、健康促進を目的とし、有志でゴルフを楽しみました。



修善寺CCにて 社会長を囲んで・・・

天候は「快晴」、プレイは、「雨のち曇り、たまに晴れ」会話も足取りも軽快♪♪楽しい時を過ごしました。プレイ後は、休息も取らず・・・Full Speedで次の会場へGo ahead！

同窓会事務室に号鐘

武部二三男

早いもので平成23年、大正を抜き明治、昭和に迫る勢いです。我々昭和の年代の者には何か追いやられる思いで、人知れず肩身の狭さを感じるのは私ひとりでしょうか。さてあの、「おんぼろ蛮カラ」寮で過ごした、「消灯後が怖い、タンツで冬の寒空便器を持ってポンドへ等思い出は尽きない」3年間は貴重な人生の財産として仕舞っております。中でも生徒規箴、号鐘は今でも愛着感じ貴重なものです。事務室が開設された折「是非復活を」と考え日夜奔走(?)して参りました。生徒規箴は本校生徒の生き様を「船乗りのモットー」と共に入寮初日にたたき込まれ洗脳されたものでした。忘れられた方もあるとおもいますが、寮の正面入口に鎮座なされ下に等身大の姿見の鏡があり外出、帰寮の際には新規一転気を引き締め、乱れた服装を直し横の各自の名札を裏返しにしたものでした。生徒規箴はE40期生山下氏のご厚意により立派な額縁入りのものが事務室正面に掲示されております。尚同様のものが学生寮に同窓会より寄贈されております。



号鐘は玄関横の週番当直室の前にあり伝達事項ある時に1点と共に「聞け!!!」で始まり伝えられたものです。1年生は、聞き漏らさぬように、鐘と共に、窓際にすっ飛び首を乗り出し用件を聴取し何処をほっつき歩いているかわからぬ上級生を寮中探して伝えたものです。従って鐘の音には非常に敏感にならざるをえませんでした。2年、3年と上級生になるに従い次第に呪縛解き放され、練習船では、8点鐘の当直交代の音だけが気になる・・・くらいです。この号鐘に黒の木綿糸を縛り自習室のデスクから遠隔操作で用事も無いのに鳴らした不屈き者がおり1年生から反感かったことをおもいだします。あの号鐘は、当局の懸命な追跡調査にもかかわらず、いまだ行方知れずで半ば諦めかけておりましたが、元日本鋼管勤務E38池上氏と再会した折り、ふとしたことからあれには劣る小さな物だが所持していることが判明、趣旨を説明漸く寄贈していただきました。両名のご厚意には紙面で大変もうしわけございませんが、感謝いたしております。有り難うございました。後日宅配便で送られてきた荷物には、1年次機関工場ですべて初めて造った記念のテストハンマーも同包されており感激いたしました。号鐘は長い歳月と共に、しぶき、風雨に晒され、今は亡き坂本九顔負けのニキビ面で緑錆も出ていました。これを赤棒、青棒（研磨剤）で丹念に磨き上げ、どうにか光輝くよう

に仕上げ事務室入り口に設置いたしました。設置の時事務局E氏が同席しておりましたが、私ほど感激されず疑問のまなざしで見られました。考えてみれば、彼らの年代は、鉄筋のビルでHi-Fiアンプの鉄琴チャイムの「ポンポンボン・・・お知らせします」で寮内何処にいても聞こえるパブリックメッセンジャーでは無理ありません。とにかく、我々には、「総員起し五分前」から「消灯」まで鐘と共に過ごして参りました。

どうか皆さんも機会が御座いましたら母校を訪ねられ、事務局の鐘を鳴らし過ぎ去りし我が青春を今一度思いおこされれば至極幸甚の極みです。♪♪その鐘を鳴らすのは貴男♪♪

創基130周年記念

懐かしのアルバム

第2章 学校生活



体育祭(昭和40年)



体育祭(昭和40年)

百年史より転載



第46回全国商船高専漕艇大会 観戦記 岩崎敏壽

母校鳥羽商船で商船高専カッターレースが開催されると聞き、7月23日午後神戸発大阪より近鉄で鳥羽へ向かった。電車が平野部から山間部にはいって行くと急に積雪に覆われた寒々とした冬景色を思いだした。約55年前の2月末頃か、難関の1次筆記試験を突破し2次の身体検査を終えて伊豆に帰る途中大阪の親戚宅に立ち寄る途次車窓から見た風景である。鳥羽には6時過ぎ到着、出迎えてくれた武部君(相撲部の後輩)や川口君等と合流。市内の割烹店で楽しく会食。同君からカッター部の顧問先生のお話では母校の連覇は難しそうとの情報あり。少し気になったが酒がはいるとすぐ学生時代の気分にかえり、船乗りのモットーや鉄拳制裁、スラックなど話は尽きなかったが9時頃解散。同夜は職員宿舎に泊まる。

明けて7月24日、0830時から本館前広場で開会式。5商船高専関係者が一同に会し開会宣言、選手宣誓や優勝旗返還(鳥羽商船A、Bチーム)等が行われ0918時第1レース、Bチーム予選開始。天候は晴れで南寄りの風が少し吹くが特に問題なし。コースは、母校練習船鳥羽丸係留場所付近から沖合いに向けてスタート、750メートル地点で折り返しスタート地点に戻る1500メートルのコースで3艇が出漕し熱戦が繰り広げられた。



第2レースBチーム予選で母校鳥羽商船B、Cチームが登場。川口君が母校同窓会の写真班員のお役を引き受けていた為、レース艇に伴走して写真を撮る必要から学校側と交渉してコースチェック用のボートに小生、武部、川口両君が乗せてもらうことになる。何たるラッキー。これでレースが真近で観戦できる事に。母校Bチームに伴走して声援を送る。真っ黒に日焼けしたクルーが力強くオールを漕ぐたびに艇がグ、ゲーっと前に進み自分が漕いでいるような気持ちになって声援にも力がはいる。学生の頃この辺りの海で手やお尻を擦り剥きながら漕艇訓練をしたこと、中之郷で行われたカッターレースなど懐かしく思い出す。母校A、Bチームは快調にとばし富山商船に大差で圧勝、ワンツーフイニッシュ。栈橋上の母校カッター部員など関係者が大いに盛り上がる。

第3レースAチーム予選で主力のAチームが出場、相手は広島と大島商船。レースは折り返し地点近く迄広島商船が健闘、母校を追走する展開となりハラハラしたが後半は母校が地力を発揮し約3艇身差で快勝。5連覇にむけ弾みのつく結果に。

第5レースからいよいよ決勝戦、まずBチーム、母校の相手は弓削、大島。出艇前はどのクルーも大声を出して気合を入れている。我々OB3名も「頑張れ」と声をかけると元気の良いクルーの声が返ってきて嬉しくなる。スタートは母校が最高の滑り出しをみせたが弓削艇のオールが折れてやり直し。出鼻をくじかれ少し心配したが圧倒的強さを見せてぶっちぎりで優勝。4連覇なる。優勝タイムは8分35秒、2着弓削とのタイム差は26秒。

11:38時いよいよファイナル第6レースAチーム決勝戦が開始。相手は弓削、広島。各校共気合が入る。母校カッター部先輩が応援にかけつけ「油断するな」と激励。出艇前の緊張した雰囲気なかでクルーが写真を

撮ってもらっている様子に少々驚く。今様の学生達か。「頑張れよ」との声援を受けて出艇して行くクルーから突然大声で「鳥羽、鳥羽」の声があがり送りだす者からも「鳥羽、鳥羽」の大歓声が応える。胸がジーンと熱くなる瞬間であった。各艇スタートの位置につき緊張の一瞬。「ゴー」の合図でいっせいにスタート。スタートダッシュでは弓削がうまく滑り出したように見えたが前半中程で鳥羽商船が早くも約1艇身リード。其の後も終始リードを保ち最後迄力強く漕ぎきって2着広島商船に3艇身以上の大差をつけて快勝。

5連覇の偉業或る。優勝タイムは8分16秒。2着広島とのタイム差は13秒。ゴールの瞬間ドッと歓声があがり、クルーは躍立てをして答礼。母校優勝クルーが次々に海に飛び込み喜びを爆発させる。最後に残った艇指揮と艇長の女子クルーもドボンと飛び込んで歓喜は最高潮に。栈橋に戻って来たクルーに「よくやった、おめでとう」の声がかけられ、歓喜の輪があちこちで広がる。喜びと達成感に満ち溢れた顔でカメラに収まるクルーたち。涙ぐむクルーのお母さんの姿も見られ古希に近い小生も胸が熱くなる。本当に苦しい練習を乗り越えてのクルー全員で掴んだ栄冠。5連覇、4連覇の偉業。素晴らしい限りである。レース終了後すぐに本館前広場で閉会式。講評、優勝旗授与など行われ母校校長により閉会宣言があり、第46回全国商船高専漕艇大会は無事閉幕。我々OB3名は市内に戻り懐かしい七越食堂(今は新しいビル)で祝杯をあげ散会。大きな感動をもらい高揚した気分で家路についた。



付記、母校鳥羽商船が5商船高専の漕艇大会に参加した当初は瀬戸内3校になかなか勝てなかったと聞いている。同3校は以前から3校スポーツ大会で競技しレベルアップを図ってきた故のようである。それを5連覇4連覇の偉業達成迄に実力を向上させたカッター部顧問先生がたの熱意あるご指導に対し深く敬意を表するものである。

付記、母校鳥羽商船が5商船高専の漕艇大会に参加した当初は瀬戸内3校になかなか勝てなかったと聞いている。同3校は以前から3校スポーツ大会で競技しレベルアップを図ってきた故のようである。それを5連覇4連覇の偉業達成迄に実力を向上させたカッター部顧問先生がたの熱意あるご指導に対し深く敬意を表するものである。



それと今回初めて参加した者として強く感じたことは、母校関係者の応援が余りに少ないことである。カッター訓練、競技はほかの学校には見られない商船学校のシンボリックなものと思うので、学校職員など関係者、学生、OBなど多数の参加を強く期待したい。また、マスコミなどにも働きかけ最も豪快な海のスポーツとして紹介してもらえば母校の存在も多少アピールできるのではないかと考える次第である。







### 会員の移動等

2011年10月 会報発行 会員数

会員の移動

新入会員 (平成23年9月卒業生を含む)

S科Nコース	S科Eコース	M科	I科	合計
15	12	33	35	95

物故会員 (平成22年4月から平成23年5月31日)

S科Nコース	S科Eコース	M科	I科	合計
13	25	0	0	38

会員数 (平成23年5月 基礎データによる)

S科Nコース	S科Eコース	M科	I科	合計
1,451	1,732	715	673	4,571

特別会員 (平成23年5月 現在)

S科Nコース	S科Eコース	M科	I科	合計
5	4	0	0	9

準会員

本科 (平成23年8月1日 現在数)

S科Nコース	S科Eコース	S科	M科	I科	合計
54	41	54	173	169	520

専攻科 (平成23年10月入学予定者を含む)

海事システム学	生産システム学	合計
5	16	21

注記：S科 (商船学科) について

入学のときはコースを問わず、商船科に入学します航海にするか機関コースにするかは、2年の終わる時に決めます。よって、上記準会員の本科生は2年生まではS科で、3年生からはS科Nコース、S科Eコースとして報告しています。

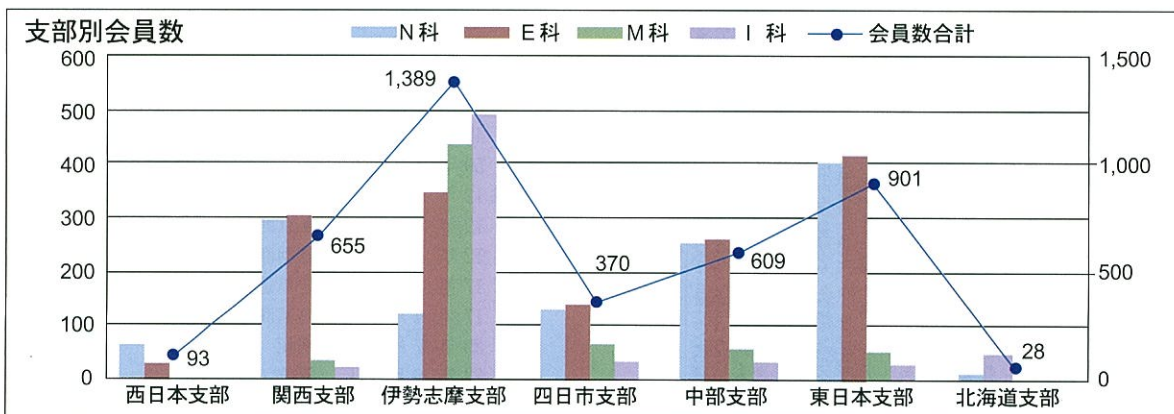
### 鳥羽商船同窓会 会員数・支部会員数

(平成23年3月 現在)

	卒業生	現会員	(現会員数内訳)		死亡	小計
			支部所属	支部不明		
N科	2,485	1,451	1,273	178	1,034	2,485
E科	2,676	1,732	1,520	212	944	2,676
M科	718	715	642	73	3	718
I科	673	673	610	63	0	673
合計	6,552	4,571	4,045	526	1,981	6,552

※特別会員は現会員数に含まれる。

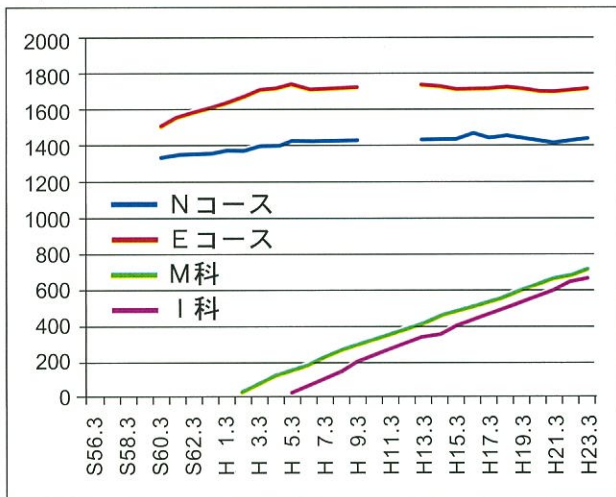
	西日本支部	関西支部	伊勢志摩支部	四日市支部	中部支部	東日本支部	北海道支部	合計
N科	61	294	123	133	251	399	12	1,273
E科	30	308	344	140	262	420	16	1,520
M科	2	32	435	63	59	51	0	642
I科	0	21	487	34	37	31	0	610
会員数合計	93	655	1,389	370	609	901	28	4,045



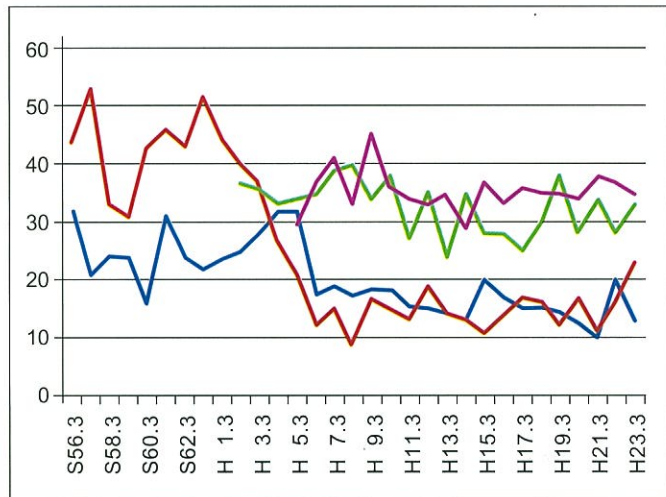


## 会員数の変化

会員数の記録（推移） 会員数



新入会員数

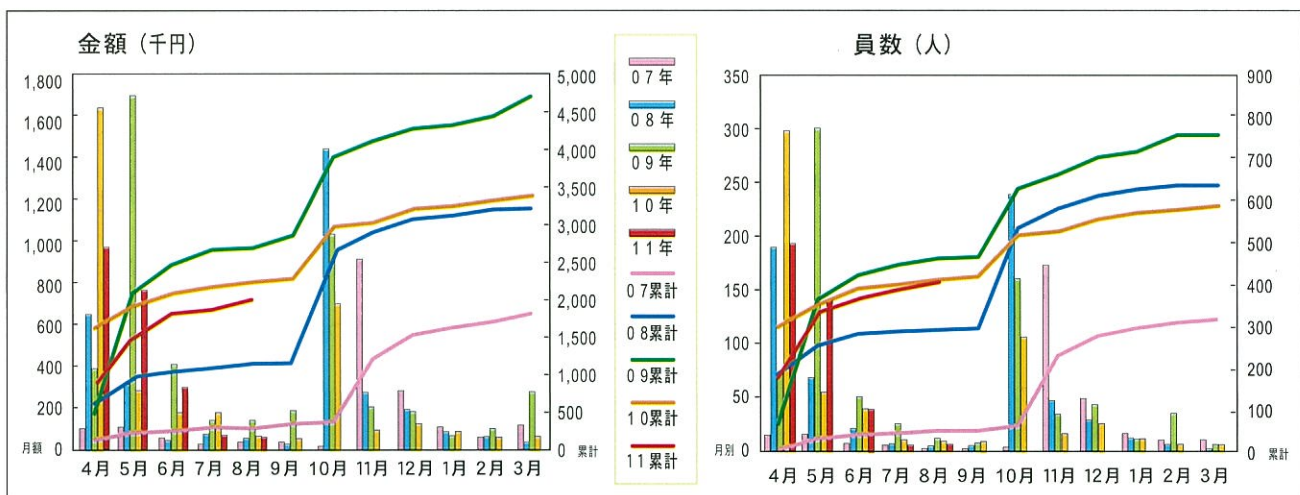


\* Nコース、Eコースは平成13年～16年ころにピークとなり、その後少しずつ減少している。  
 平成6年から卒業生が急減したせいである。それまではNコースで20-30名、Eコースで40-50名であったのが、夫々10-20名となった。  
 会員の年齢構成から、現状の10-20名の卒業生であれば、減少傾向が続くことになる。

\* M科、I科は毎年夫々30-40名程度の卒業生となっている。  
 会員の年齢構成が若いこともあり、毎年卒業生の数だけ会員が増えている。

\* 学生定員  
 昭和60年(1985年)から、従来、航海科40名+機関科80名であったのを、航海科40名+機関科40名+電子機械工学科40名となった。  
 又、所和63年(1988年)には、商船学科40名(航海コース+機関コース)+電子機械工学科40名+制御情報学科40名となった。

## 月別会費納入状況



会費納入実績では4月と10月にピークがあります。  
 これは会報の送付と総会の案内の時期に重なります。  
 2009年度は2008年度に比べて大幅に増えました。



# 事務局だより

## 新事務局員について

事務局に新たに、三井 健次 (S43E)、八木 菊平 (S43E)、川原 伸次 (S44N)、北端 大志 (H8N)、が加わりました。  
 又、学校連絡担当としては鈴木 秀司 (S48N) から、江崎 修央 (H4M) に変更となりました。(敬称省略)



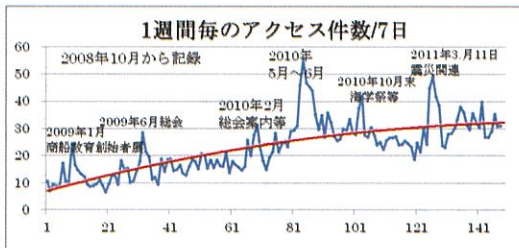
## ホームページバナー広告料

バナー広告掲載料は年間¥30000 としてきましたが、個人で負担してくれているケースもあるので、法人に関しては従来通りとし、個人に関して、掲載開始時は¥30000、2年目から¥10000 とします。バナー広告して頂いた方々の広告を同窓会報にも掲載する事としました。時節柄、厳しいとは思いますが、新たなバナー広告の応募を大いに期待しています。

## ホームページアクセス 20000 件突破

平成 23 年 3 月 30 日昼ごろ、同窓会ホームページアクセス数は 20000 件を突破しました。ホームページは平成 20 年 4 月に開始し、実際の運用はその年の 10 月頃からでした。平成 22 年 5 月 1 日に 10000 件を突破し、その後、平均すると 30 件/日のアクセス数となります。頭打ち状態です。平成 20 年 10 月の運用開始からアクセス数を記録しています。添付参照ください。

事務局としては、フレッシュニュースのアップに努めますが、各支部便りの充実、同窓生の投稿の増加を大いに期待します。クラス会情報など大歓迎です。



## 古い会報の掲載

同窓会のホームページの「会則・同窓会報」欄に以前に発行した同窓会報を掲載しておりますが、新たに1998年、1999年、2000年の会報を掲載しました。事務局の会報ファイルにいくつか欠落している会報がありましたが、会員の協力によりお手持ちの会報をコピーさせていただき、ここに掲載する事が出来ました。有難うございました。これにて古い会報をいつでも見て頂けるようになりました。尚、個人情報にかかりそうな個所は掲載していません。

## 役員連絡会議 始まる

先の理事会・総会で「役員連絡会議」を定期的に行う事が決まりました。それに沿い、7月に会長・副会長・各支部長・事務局長をメンバーとして、それぞれの状況報告・懸案事項・その他に関しEメールを通して話し合う「役員連絡会議」を開催しました。今後は2カ月毎に開催となります。役員相互間の連絡を密にし、同窓会活動の活性化につなげたいと考えています。

## 若い会員、工業系会員の参加

今年の役員改選で初めて工業系会員が理事になりました。又、今年の総会後の懇親会では多くの若い工業系会員が参加して、大いに会場は盛り上がりました。大変喜ばしいことです。会員総数の1/3は工業系が占めるようになり、今後、ますますその割合が増えていきます。工業系の会員の年齢も40歳を超えてきました。まだまだ仕事に家庭に忙しい時期ではありますが、少しは同窓会に目を向けて、参加して欲しいと思います。

## 桜の花見

平成 23 年 4 月 10 日、二見で満開の桜の花見を楽しみました。集まったのは、本部事務局、故郷の海を愛する会で一緒に活動している同窓会会員と3名の奥方。あいにく古川さん(伊勢志摩支部長兼故郷の海を愛する会会長)は入院中、江崎さん(本部事務局)は鳥羽の祭りの役員で参加できませんでした。花見はうぐいすやキジの鳴き声も楽しみながら長時間続き、山口さんの奥さんの用意してくれたおいしい料理とお酒を精一杯楽しみました。



写真、向かって左から  
 三井、八木、川原、山口、金田、武部、  
 (溝井は参加するも映っていない)

## 編集を終えて

今年の会報は「東日本大震災」、「母校創基130周年」、「端艇大会」関連の記事が目についたと思います。これらの記事を含めホームページをご覧の方々は既に掲載されている記事を会報上で多く見つけられた事でしょう。事務局ではホームページにどしどし記事をアップし、皆さんがタイムリーに同窓会や母校の情報を得られるように努めます。

会員の皆さんからの情報の提供も期待しています。

**同窓会会費**

## 同窓会会費納入のお願い

円滑な同窓会運営の為会費納入にご協力下さい。滞納の方は分割でも結構です。



鳥羽商船同窓会運営細則(改定)

平成23年度6月総会において一部変更されました。

(支部名称と管轄地域)

第1条 全国を7支部に分割し、支部名称と管轄地域を定める。

- (1) 北海道 北海道地方
- (2) 東日本支部 東北・関東甲信越地方、静岡県の一部
- (3) 中部支部 中部・北陸地方、静岡県の一部
- (4) 四日市支部 三重県の北中勢地域
- (5) 伊勢志摩支部 三重県の南勢地域
- (6) 関西支部 近畿地方と岡山県
- (7) 西日本支部 岡山県の一部を除いた中国・四国・九州地方

(副会長)

第2条 副会長は若干名となっているが、当面副会長は4名体制とする。

2 副会長の担当支部を定め、会務遂行にあたる。

- (1) 田中副会長 北海道支部、東日本支部
- (2) 竹川副会長 中部支部
- (3) 山田副会長 四日市支部、伊勢志摩支部
- (4) 藤本副会長 関西支部、西日本支部

3 会長はあらかじめ職務代行副会長を指名しておき、指名なき場合は副会長間で協議する。

(支部長)

第3条 支部長は支部数名となっているので、現行支部長7名体制とする。

2 安定した支部活動を推進するため、支部長は2期4年以上の期間とする。

(理事)

第4条 各支部選出の理事数については当面次のとおりとする。

- (1) 北海道支部 2名
- (2) 東日本支部 10名
- (3) 中部支部 6名
- (4) 四日市支部 4名
- (5) 伊勢志摩支部 13名
- (6) 関西支部 7名
- (7) 西日本支部 2名

(特別顧問)

第5条 会長経験者は理事会に諮り名誉顧問とする。

- 2 母校教職員のうち、学校長、副校長及び事務部長の職にあり、本会の趣旨に賛同する者で、理事会で承認された者を特別顧問とする。

(理事会)

第6条 定例理事会は原則として毎年6月に開催する。

- 2 定例理事会等の開催日時及び場所については事前に理事会若しくは支部長会で決定する。

(支部長会)

第7条 原則として定例理事会との重複を避け、年1回以上開催する。

(支部運営)

第8条 各支部には、副支部長・幹事・支部事務局・支部顧問等、支部業務運営に必要な支部役員をおくことができる。

- 2 支部業務運営に必要な支部規定を定めた場合は、理事会若しくは支部長会で報告する。

(会費)

第9条 入会金は1000円とする。

- 2 会費は年額2000円とする。但し、夫婦会員の場合の会費は1名分とする。
- 3 終身会費は20000円とする。(満65歳以上で会費を完納している者)

附則

- 1、この細則は、平成23年6月12日から施行する。

海学祭

H23年11月13日(日)は…  
毎年恒例の「海学祭」です。  
皆さん、ぜひご来場下さい。お待ちしております。

ホームページをご覧ください

鳥羽商船同窓会

検索

http://tobashousen-dousoukai.com/

学生募集  
の  
PR依頼

少子化の時代を迎え、義務教育以外の学校はいずこも学生募集に躍起になっています。特に大学は学生の全入学時代に突入し、一段と厳しさを増しています。将来の予断は許されず、学校としても学生募集のPRに励んでいます。

つきましては、より優秀な学生に入学していただくため同窓会のご協力を仰ぎたい所存です。学校にご連絡下されば、A2版ポスター、学校案内冊子、学生募集要項をお送りしますので、下記宛にご連絡下さい。

独立行政法人  
国立高等専門学校機構

鳥羽商船高等専門学校

〒517-8501 三重県鳥羽市池上町1-1 電話(0599)25-8404

ホームページアドレス http://www.toba-cmt.ac.jp/ E-mail gakusei-nyushi@toba-cmt.ac.jp

◎書類請求(無料)は本校の学生課入試・支援係へ